

Title	東京歯科大学広報 第311号 2023年12月26日発行
Journal	東京歯科大学広報(311)
URL	http://hdl.handle.net/10130/6331
Right	
Description	

東京歯科大学広報



第55回東歯祭 開催



▲パンフレット表紙



▲井出吉信理事長へご挨拶



▲歯の模型ストラップづくり体験会



▲コーヒーどうぞ（有賀央佳店員）

第55回 歯車（ギヤ）～個性と

第55回東歯祭が、10月28日（土）、29日（日）の両日にわたり開催された。

当日は、東歯祭実行委員による本部企画、各クラブによるステージ発表のほか、カフェや縁日、歯の模型ストラップづくり体験会などの企画が実施された。

今年のテーマであった、「歯車（ギヤ）～個性と個性の噛み合わせ～」のように、特色ある企画と実行委員やクラブ部員の気持ちが形になって重なり合い、盛況のうちに無事2日間を終えることができた。

【テーマは「歯車（ギヤ）～個性と個性の噛み合わせ～」】

テーマの主なコンセプトは『歯車は歯と歯が噛み合うことによって回り、その歯は歯車によって異なる「個性」を持っている。その個性の調和を大事にするという意味を込めて、サブタイトルを「個性と個性の噛み合わせ」とする』である。歯科大学の大学祭らしさを出すこと、また過去の東歯祭から「魂のバトン」を引き継ぎ、今後も確実に繋げていくという意味も込められている。

そのテーマを基に、今回は、A部門（パンフレットの表紙）、B部門（ポスター賞）、C部門（装飾のデザイン）、D部門（記念品のロゴ）としてデザインを募集し、第4学年の澁谷朱理さん制作のデザインがすべての部門にて採用された。

【5社が協賛】

今回初の試みとして、約30社の企業に協賛を掛け合い、最終的に東歯祭実行委員たちの尽力により5社が協賛していただくことになった。商品の提供から、来場者アンケート回答者へのお土産やクイズ正答者への景品、ポスター展示などに協賛いただき、コンテンツとしてもさらに充実し魅力のある内容となった。

【個人の新たな魅力が引き出された有志によるステージ発表】

各クラブの発表とは別に、今回初の試みとして有志によるステージ披露を募集し、5組の有志によるステージ発表があった。寸劇、ピアノ演奏、引き語りやダンスなど、個性あふれるステージとして彩られ、個人の新たな魅力が引き出された舞台となった。来場者からの記入式アンケートによる審査の結果、寸劇を披露した第3学年の福原百茄さん（演劇部）が優勝、ピアノ演奏と歌を披露した第2学年の神山史門さん・川原し乃さん・伊藤太郎さんが準優勝を見事に勝ち取った。



▲一戸達也学長、カフェ部門担当の学生たちと



▲入口にバルーン装飾

東歯祭 個性の噛み合わせ～開催

【東歯祭実行委員による本部企画ではUFOキャッチャーも実施】

本部企画として、解剖学ツアー、公開講座、ポスター展示、UFOキャッチャー、そしてクイズ大会を行った。解剖学ツアーでは、普段見ることのできない解剖学標本室を解剖学講座教員の解説を聞きながら見学できるため、毎年好評をいただいている。UFOキャッチャーも今回初めての企画であり、本学マスコットであるピバノスケと、オリジナルキャラクター（歯の形がモチーフ）のぬいぐるみを景品とした。誰でも気軽に楽しめる企画は、今年の東歯祭実行委員らしさがあふれるものとなった。クイズ大会は恒例となっており、各講座の教員とクラブの学生が同じステージにて競うことができる特色ある企画である。本学の歴史や歯科に関する問題などが出題される早押し形式でクイズ大会が進み、見事16チームの中で栄えある優勝を勝ち取ったのはダンス部であった。

【全体を通して】

各クラブによるステージ発表では、管弦楽部、演劇部、混声合唱部、M.L.S.部、Big Band Jazz部、ダンス部、そしてピアノの会が日ごろの練習の成果を披露し、観客たちを音やダンスで魅了した。また剣道部は、得意の漫才で会場を沸かせていた。

授業後の限られた時間で一生懸命練習した成果を発表する姿は、普段の学生生活とはまた違った学生の素敵な一面を見る機会となり、学生同士でもお互いの刺激となる時間であったはずだ。

そんな中、水道橋校舎新館建物前では緑日部隊による射的、宝釣りの屋台と、焼きそばの販売が行われた。射的や宝釣りは、通りかかった人が歩みを止めて参加するなど、東歯祭の顔となるべく学生たちも一緒に楽しむ姿が印象的であった。

また、今年の見どころの一つとなったお化け屋敷は、「歯磨きをせず、むし歯を放置した主人公に降りかかる恐怖」という歯科大学ならではのテーマで作られ、なかなかのスリルを味わうことができるものであった。

どの企画やステージも、それぞれが持つ個性の噛み合わせが大きな力となり、本学の特徴を引き出す素晴らしい2日間となった。学生一人ひとりの力が一つの大きな力になること、これが東歯祭の最大の良さであると感じられものであった。



▲ M.L.S. 部による軽音演奏



▲ 合唱部によるステージ発表



▲ 管弦楽部によるステージ発表



▲ 今回初の試み、UFOキャッチャー



▲ 本学マスコットのピバノスケも参加



◀ 左から、笠原正貴学生部長、吉田颯樹東歯祭実行委員長、森野友菜前東歯祭実行委員長

【心地よさ・リラックス・安心感】をコンセプトとした新施設 市川総合病院に薬物療法室が開設

2023年9月19日（火）、市川総合病院歯科・口腔外科外来跡地の外来2階中央エリアに、新たに薬物療法室が開設された。「心地よさ」「リラックス」「安心感」をコンセプトに、患者さんに快適に過ごしてもらうための心遣いが随所に散りばめられ、患者さんが安心して前向きな気持ちで治療を受けられる施設となっている。

治療ブースは、チェア17、ベッド1の合計18あり、薬物療法を受ける患者さんが座る治療用リクライニングチェアは、レモンイエロー、ベージュ、ライトブラウンのやわらかな3色を使用し、それらをランダムに配置している。また、ブース間のパーティションと、カーテンの素材と配色に工夫を凝らし、壁紙にはティファニーブルーと天井にトキ色をアクセントで配色し、施設全体のカラーコーディネートがなされている。また、薬剤師が抗がん剤などの薬剤を正確に調剤するミキシングルームが薬物療法室に直結して併設されており、治療薬剤の待ち時間を短くしてすみやかに患者さんに投与できるよう体制を整えている。

国から地域がん診療連携拠点病院に指定されている市川総合病院は、手術、薬物療法（抗がん剤治療）、放射線治療というがんの3大治療を提供している。近年、薬物療法は著しく進歩し、がん治療における比重が高まる中で、市川総合病院でも薬物療法を受ける患者さんが年々増加している。薬物

療法室での治療実績を見ると、2020年、2021年には新型コロナ禍の影響がありやや減少していたが、2022年には年間3,566件とそれまでの最高件数を記録した。また、本学では日本で唯一の口腔がんセンターを市川総合病院に有し、口腔がんの治療件数は国内有数であり、口腔がん患者に対する薬物療案件数は毎月40件前後に達している。このような現状から、薬物療法の治療環境の拡充・整備が課題となっていた。

そこで今年度、薬物療法科が新設され、薬物療法科教授として和田徳昭先生が就任された。同科にはがん薬物療法専門医、外来がん治療専門薬剤師、がん化学療法看護認定看護師などの専門資格を有する医師、薬剤師、看護師が所属している。今回新たに薬物療法室を開設したことで、医科各診療科および口腔がんセンターのがん患者さんに、これまで以上に安心して安全な薬物療法を受けていただける充実した人員と体制、および快適な設備と環境を整備することができた。その結果、薬物療法治療件数はさらに増加し、早くも11月までで4,164件とはじめて4,000件を大きく超え、年間4,600件程度と見込まれている。市川総合病院では、これからも質の高いがんの集学的治療*を実施していく。

*集学的治療：手術、薬物療法、放射線治療などを組み合わせ、より高い効果を目指す治療

■ 和田徳昭教授によるご挨拶



和田 徳昭
市川総合病院薬物療法科教授

この度は、新しい薬物療法室が完成し、開設を迎えられましたことを関係者方々に深く御礼申し上げます。旧薬物療法室は13床で手狭であったのに対し、新しい薬物療法室は合計18床となり、広々とした空間で色彩も考慮し患者さんに安らぎを与えるように設計されています。ハード面だけでなくソフト面でも受付、採血、診察から実際の治療開始、会計まですべての流れを見直し、待ち時間の減少、効率かつ安全性をより高めた運用をすべくマニュアルもきめ細かく改訂されました。われわれスタッフが笑顔で気持ちよく働けることで、患者さんの不安を取り除けると確信しております。もちろん、歯科大学のメリットを活かし口腔粘膜炎などの副作用軽減のための適切な支持療法も歯科の先生方と協力して継続して行われます。今後も、患者さんの安心・安全を第一に考え、よりよい医療サービスを提供することを目指してまいりますので、今後ともよろしく申し上げます。

市川総合病院薬物療法室オープニングセレモニー実施

2023年9月6日（水）午後4時30分より、市川総合病院外来中央エリアにおいて、薬物療法室オープニングセレモニーが実施された。

原 正樹庶務課長司会のもと、一戸達也学長、市川市医師会の伊藤勝仁会長、松井淳一副学長、西田次郎病院長、和田徳昭薬物療法科教授の挨拶に続き、テープカットが行われた。



▲挨拶する一戸学長



▲挨拶する和田教授



▲テープカットの様子（左より、吉川淳子副病院長、和田教授、松井副学長、一戸学長、伊藤市川市医師会長、西田病院長、門田教授）



▲左より、西田病院長、伊藤市川市医師会長、松井副学長



▲受付



【新しい薬物療法室のご案内】

こちらのQRコードから、リニューアルした薬物療法室内をドローン撮影した動画をご視聴いただけます。



▲正面ドア



▲エントランス正面



▲治療用リクライニングチェア



▲スタッフステーション



▲薬剤受け渡しの様子



▲スタッフ



▲ミキシング室



▲薬物療法室

● 薬物療法室開設を迎えて



ミキシング室

門田 佳子
市川総合病院臨床薬学科教授

2023年9月、新薬物療法室が開設されました。新薬物療法室では、薬物療法科の和田徳昭教授を中心に各診療科の主治医、がん化学療法の認定看護師や専門薬剤師を含めたスタッフが協力して、従来の抗がん薬に分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬などを加えた最新の治療を行っています。加えて、関節リウマチなどの自己免疫疾患に対する生物学的製剤の投与も行っています。

抗がん薬混合調製（ミキシング）は、薬剤部内から薬物療法室内のスタッフステーションに隣接したミキシング室に移動し、看護師と薬剤師が患者さんの状態など密に連携をとりながらミキシングを行うことが可能となりました。

さらに、がん薬物療法の専門薬剤師が、患者さんに独自の説明文書を用いて化学療法レジメンや投与スケジュール、副作用の初期症状やその対策の説明を行い、主治医に用量や支持療法、検査の提案を行っています。また、患者さんの安全確保のために地域の薬局とも連携して副作用のモニタリングなどを行っています。

教授就任のご挨拶



法歯学・法人類学講座

石川 昂

この度、2023年10月1日付けで法歯学・法人類学講座教授の職を拝命いたしました。就任にあたり、井出吉信理事長、一戸達也学長をはじめ、ご推薦およびご選考いただきました先生方に厚く御礼申し上げます。その重責に身が引き締まる思いであるとともに、伝統ある講座の名に恥じぬよう、日々の業務に取り組む決意であります。

私は2008年に本学を卒業後、京都府立医科大学法医学教室に大学院生として入学いたしました。在学中にはオーストラリアのメルボルン大学に客員研究員として研究留学を行い、日本国外での歯科的個人識別方法を用いた鑑定実務に従事いたしました。大学院修了後は、約2年半の臨床医としての勤務を経て、2015年に本学の組織・発生学講座に着任いたしました。そして、2020年に配置替えにより法歯学・法人類学講座に異動し、橋本正次名誉教授のもと、教育・研究に従事いたしました。

法歯学は、科学的な個人識別法の1つとして、その重要性は広く認知されており、今後も自然災害が頻発する日本では、歯科医師界全体が担う責務は拡大していくものと考えております。そのため、歯科所見を用いた個人識別だけではなく、研究者として実務応用可能な研究成果を全国に配置されている警察協力歯科医へ還元することこそが我々に課せられた職責であると考えております。

1964年に法歯学研究室として創設された日本最古の法歯学研究機関の一員として、責任ある講座運営に努めていくとともに、東京歯科大学の発展のため微力ながら尽力して参りたいと思います。今後ともご指導ご鞭撻の程よろしく御礼申し上げます。



口腔インプラント学講座

佐々木 穂高

この度、2023年10月1日付けで口腔インプラント学講座の主任教授を拝命いたしました。ご推挙をいただきました井出吉信理事長、一戸達也学長をはじめ、選考委員会の先生方に厚く御礼を申し上げます。身に余る光栄でありますとともに、伝統ある東京歯科大学の教授として、その重責に身が引き締まる思いであります。

私は、2002年に本学を卒業後に本学大学院病理学講座へ進学し、下野正基名誉教授、橋本貞充客員教授、村松 敬教授のご指導のもとで臨床に繋げる基礎研究を学んでまいりました。その後、2008年に当時の口腔インプラント学研究室に入局し、2009年に口腔インプラント学講座に昇格してからは本学の教員として、前任の矢島安朝教授をはじめ諸先輩方にご指導を賜りながら、教育・研究・臨床に携わってきました。

口腔インプラント学は、包括的な学問であり臨床実習を目前とした第4学年後期に実施されることから、基礎科目と臨床科目の知識の繋がりを再確認できる講義を心掛けてまいりました。

研究では講座設立時からの研究テーマ「口腔インプラント治療におけるリスクファクターの明確化」を追求すべく、大学院生の指導をしながら研究を行ってまいりました。2017年にはカリフォルニア大学ロサンゼルス校の西村一郎教授のもとで研究留学をさせていただき、そこで学んで培った経験を活かしインプラント周囲炎の予防法確立に関する研究を行っております。

本学は、1983年に今日の口腔インプラント治療の礎を築いたオッセオインテグレートインプラントの埋入手術が、我が国ではじめて執り行われた施設であります。この由緒ある歴史を引き継いでいくだけでなく、さらなる発展を遂げるためにも、多領域連携型の包括的歯科医療の実践できる連携がとれた診療体制を整え、質の高いインプラント治療を実践できるようにしていきたいと考えております。

今後はより一層の研鑽を積み、教育・研究・臨床における本学の発展に寄与していければと思いますので、ご指導、ご鞭撻の程よろしく御礼致します。



語学研究室

今井 肇

このたび2023年10月1日付けで語学研究室教授を拝命いたしました。130年の輝かしい歴史と伝統を誇る東京歯科大学の教授という大任を仰せつかり、身に余る光栄でありますとともに、職の重みに身の引き締まる思いです。ご推挙くださいました井出吉信理事長、一戸達也学長をはじめ選考委員会の先生方、日頃より大変お世話になっている教養講座の先生方に深く感謝申し上げる次第です。

私は本学にお世話になる前、千葉県公立学校教員として県立高校英語教諭、県教育委員会指導主事、県立高校教頭、校長として英語教育の推進に携わってまいりました。私がずっと目標とし、指導的立場になってから若手の先生方に紹介してきた言葉があります。

The mediocre teacher tells. 凡庸な教師はただしゃべる
The good teacher explains. よい教師は説明する
The superior teacher demonstrates.
すぐれた教師は自らやってみせる
The great teacher inspires.

そして、偉大な教師は学生の心に火をつける
教師の目指すべき姿を4行の英文で見事に表現しています。私自身、若者の学ぶ心に火をつけようと気持ちだけは常に持っているのですが、到底その域には達していません。凡庸な教師レベルかなと落ち込むこともしばしばです。凡庸な教師、よい教師、すぐれた教師と偉大な教師とのもっとも大きな違いは何かを考えると、凡庸な教師、よい教師、すぐれた教師が行っていることは、「話す」、「説明する」、そして実際に「やってみせる」など、すべて授業中に行われる行為です。これに対して「偉大な教師」の取り組みは授業を超え、学生に学ぶおもしろさを実感させ、自ら学び続けようとする意欲を掻き立てます。学生の学ぶ心に火をつけたいという気持ちだけは自分自身、生涯持ち続けていきたいと思っております。

私の授業を通じて、学生諸君が英語を生涯学習として学び続けるとともに、外国人患者さんと英語を使って積極的にコミュニケーションを図る意欲を一人でも多く持ってくれるよう、微力ながら精一杯努力していく所存です。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます、教授就任の挨拶とさせていただきます。

■ 准教授就任のご挨拶



口腔科学研究センター

大野 建州

2023年10月1日付けで、口腔科学研究センター准教授を拝命いたしました。井出吉信理事長、一戸達也学長をはじめ、ご支援、ご指導いただきました東 俊文口腔科学研究センター長、大学関係者および諸先生方に深く感謝申し上げます。

私は2002年に本学を卒業後、歯科麻酔学講座に入局し、金子 讓名誉教授、一戸達也教授のご指導のもと本学大学院を修了いたしました。大学院在学時には、さまざまな有病者における歯科治療を学ぶ貴重な機会を得ることができました。その過程で、アレルギー疾患に興味を持ち、大学院の研究テーマをアナフィラキシーショックに関するものに設定していただきました。大学院修了後は、2006年から2009年までは理化学研究所と国立成育医療研究センターで免疫・アレルギーに関する研究を継続し、2010年からは東京医科歯科大学で口腔免疫に関わる研究を開始いたしました。2019年には、本学口腔科学研究センターに助教として迎え入れていただき、2020年からは講師として、口腔科学研究センターの運営、大学院生の研究指導や歯学部学生の講義に携わらせていただいております。

現在、研究指導を担当しておりますすべての大学院生は、本学の臨床系講座に所属する先生方です。大学院生の研究については、各々が専門とする臨床科目により深く関わるテーマをともに立案することからスタートし、高い専門性やリサーチマインドを持つ歯科医師を目指すことができる研究環境を作ることを意識しております。また、2023年度からは全学的に取り組む新たな研究プロジェクト「ウェルビーイングプロジェクト」が開始されました。同プロジェクト内で設定された4つのラボの1つ「生体防御ラボ」のリーダーを拝命し、多くの講座、先生方と連携しながら研究推進を図っているところであります。今後も東京歯科大学の研究発展のため、さらには歯科医学・医療を少しでも先に進ませることができるよう努力してまいりたいと思います。今後とも変わらぬご指導、ご鞭撻のほどをよろしくお願いいたします。



市川総合病院循環器内科

眞野 恵範

この度、2023年10月1日付けで市川総合病院循環器内科准教授を拝命いたしました。井出吉信理事長、一戸達也学長、片倉 朗副学長、西田次郎市川総合病院長、選考委員会の先生方、循環器内科の大木貴博教授に心より感謝申し上げます。

私は2002年に慶應義塾大学医学部を卒業し、慶應義塾大学内科学教室に入局しました。その後、慶應病院や関連病院で臨床の研鑽を積むとともに、現北海道大学教授の安齊俊久先生のもとで、循環器疾患と炎症をテーマに基礎研究、臨床研究を行いました。市川総合病院赴任後は、大木教授、心臓血管外科の先生方、慶應義塾大学循環器内科、また当院の多くの献身的で有能なコメディカルスタッフにも支えられ、多くの急性期診療にかかわってこることができたことに感謝しております。

市川総合病院は伝統のある東京歯科大学の附属病院であるとともに、専門性が高い各診療科の先生方がそろっている総合病院であり、東葛南部医療圏で地域医療支援病院としての役割を担っています。引き続き循環器救急への確実な対応や、個々の患者さんにとって最適な治療、満足度の高い医療の提供を通じて、地域の住民や医療機関からの信頼をより深めていただけるよう努力してまいりたいと思います。また日進月歩の知識・技術・デバイスも、安全に導入していけるよう日々研鑽を積んでまいりたいと思います。さらに当院には本学の学生、歯科研修医はもちろんのこと、医学生や多くの医科研修医、専修医も集まっており、実践的な教育機関としての役割も果たしていきたいと思います。

本学および市川総合病院の発展のため、微力ではございますが貢献できるよう努力してまいりたいと思いますので、今後ともご指導、ご鞭撻のほどをよろしくお願い申し上げます。

高添一郎名誉教授ご逝去



名誉教授

高添 一郎先生

本学名誉教授である高添一郎先生が、2023年11月4日にご逝去されました。享年94歳でした。突然の訃報に驚きを隠し得ません。心からご冥福をお祈り申し上げます。

高添先生は、1954年に本学を卒業され、ただちに微生物学講座に入室されました。1958年にスウェーデン国費留学生としてストックホルム王立歯科大学（現カロリンスカ大学歯学部）細菌学教室留学、1967年の米国テキサス大学歯学部 Dental Science Institute 留学を経て、1971年に本学の微生物学教室主任教授に就任されました。1989年から1995年まで大学院研究科長を務められ、主任教授就任後24年にわたって本学の研究・教育を牽引してこられました。学外においては、世界保健機関の口腔保健専門委員、国際歯科連盟（FDI）の学会・教育委員会委員、文部省・厚生省の各種委員を歴任されました。

研究においては、我が国の口腔細菌学の草分けとして、非齲蝕性甘味料開発、*Corynebacterium matruchotii* の菌体

内石灰化による歯石形成メカニズム、*Porphyromonas gingivalis* をはじめとする黒色集落形成嫌気性桿菌群の歯周病原性の研究などを推進し、大学の研究と我が国の口腔細菌学を牽引してこられました。これらの業績が評価され、国内では日本歯科医学会会長賞研究部門賞、国外ではFDIからJohnson & Johnson研究部門賞、Merit Award、The Miller Prizeなど多数の賞を受賞されました。研究に対する慧眼と見識は衰えを知らず、退職後も学会やDentistry, Quo Vadis?などの場で、研究についてこれからの歯科医学の方向性を見据えたコメントをされるとともに、野口英世記念会の理事長として、2006年に小泉純一郎総理の肝いりで生まれた野口英世アフリカ賞の設立や、福島県猪苗代の記念館のリニューアルに尽力されました。

常に先端の研究を見つけ出し、新たな研究の方向性について話す先進性には驚かされるとともに、その会話の端々に感じられるウイットと周囲に対する思いやりから、高添先生は研究者の枠を超えて多数の人々から敬愛されておりました。にこやかに研究について語られている姿が今でも思い出されます。きっと今頃は天国でJ. Lederberg博士とディスカッションでもされているのではないかと思います。どうか安らかにお休みください。

（微生物学講座 教授 石原和幸）



▲微生物学講座集合写真（千葉校舎にて1989年11月撮影）



▲UX新潟テレビ21による取材時の様子（写真提供：UX新潟テレビ21）

千葉歯科医療センター医療連携講演会開催

2023年9月21日（木）午後6時より、京成ホテルミラマーレ（千葉市）において、東京歯科大学千葉歯科医療センター医療連携講演会が開催された。本講演会は、千葉県歯科医師会、千葉市歯科医師会、習志野市歯科医師会、印旛郡市歯科医師会、市原市歯科医師会、八千代市歯科医師会、船橋歯科医師会、江戸川区歯科医師会の協力のもと、地域の歯科診療所と千葉歯科医療センターとの連携強化を目的として開催している。演題は毎年、千葉県歯科医師会および近隣歯科医師会のセンター外委員と千葉歯科医療センターのセンター内委員で構成されている医療連携協議会で決定しており、3部構成で開催された。

当日は当センター関係者を含め153名の参加者を迎え、片倉 朗千葉歯科医療センター長の挨拶にて始まり、第1部30分・第2部40分・第3部は25分にて行われた。

参加者アンケートでは、「ノンクラスプデンチャーについての講演がとてもわかりやすく、トラブルの原因、対策が説明されていて一般開業医へ向けての対応の指針もあってよかった。」「小児の萌出に対する治療介入時期が大変わかりやすかった。特に絵（ロケット、ガスメーター）は説明時に利用させていただきたいと思います。」「一般歯科系の講演では紹介状の記載などを確認できました。」などの声が寄せられ、大変有意義な講演会となった。

第1部 ノンクラスプデンチャーの設計指針と光学印象

座長：久永竜一（一般歯科系部長）

演者：清水廷浩（千葉歯科医療センター補綴科）

第2部 萌出異常—その診断と治療—

座長：石井武展（育成歯科系部長）

演者：荒井 亮（千葉歯科医療センター小児歯科）

水野周平（千葉歯科医療センター矯正歯科）

第3部 診療科より

座長：大神浩一郎（副センター長）

・摂食嚥下リハビリテーション科より

演者：大久保真衣（摂食嚥下リハビリテーション研究室）

・一般歯科系より

演者：備前島崇浩（千葉歯科医療センター保存科）



▲挨拶する片倉センター長

◀演題および演者

市川総合病院 2023年度第1回総合防災訓練実施

2023年9月22日（金）午後2時30分より、市川総合病院において、建物設備等の点検および自衛消防訓練（通報・避難等訓練）が実施された。

午後2時30分より、消火器および屋内消火栓取り扱い訓練が防災センター職員指導により行われた。午後3時30分からは、火災発生を想定した通報・避難訓練が北病棟3階器材室を発火場所として行われた。病棟職員と防災センター職

員の組織的な活動と、消防用設備の有効活用により、館内の職員および患者の安全を確保するための初期消火活動から、実際に模擬患者などを設定して実践さながらの避難・誘導訓練が行われた。

最後に当院の防火・防災管理者である水野利彦事務部長より講評をいただき終了となった。



▲消火器・屋内消火栓取り扱い訓練の様子



▲避難訓練の様子



■ 新潟県立糸魚川白嶺高等学校において出前授業を開催

2023年9月21日(木)、新潟県立糸魚川白嶺高等学校において出前授業が開催された。本取組みは、「糸魚川市との包括的連携に関する協定」にもとづき開催しており、昨年までは新型コロナウイルス感染症の影響でオンラインでの開催だったが、締結後はじめて対面での授業を行うことができた。

当日は、生活福祉系列の2年生に対し、口腔健康科学講座 摂食嚥下リハビリテーション科の久保真衣准教授と、短期大学の菅野亜紀教授が、それぞれ『歯科医師の仕事～摂食嚥

下リハビリテーション編』と『歯科衛生士の役割』と題して授業を行った。高校の授業でも勉強をしているという「終末期」や「QOL」などの単語に反応し興味深げに話を聞いた。実際に訪問診療で行っている体操を経験し、参加者からは「歯科医師や歯科衛生士の仕事がよくわかった」「高齢者への対応について理解が深まった」という感想があった。

今後も糸魚川市と連携し、定期的開催をしていく予定である。



▲講義をする菅野短期大学教授



▲講義をする久保准教授

■ 2023年度第5回水道橋病院教職員研修会開催

2023年9月26日(火)午後6時より、オンラインにて、2023年度第5回水道橋病院教職員研修会が開催された。

今回は、「臨床実習における患者同意について」と題して山下秀一郎水道橋病院長による講演、「カルテ記載の注意点」と題して水道橋病院診療録指導委員会副委員長の河野誠之先生による講演、「歯科口腔リハビリテーション料について」と題して水道橋病院診療録指導委員会委員の大平真理子講師による講演、「処方箋の発行に際して」と題して山根理恵子主任薬剤師による講演が行われた。

山下水道橋病院長による「臨床実習における患者同意について」の講演では、モデル・コア・カリキュラム改定に伴い対応いただきたい事項を説明され、病院窓口にて患者同意文書を配布すること、学生等臨床実習間トラブル時対応フローチャートについて説明された。

河野先生による「カルテ記載の注意点」の講演では、治療計画の記載、診療内容の整合性、必要性の記載について事例をあげて説明された。処置の算定回数や算定点数記載のない

処置、手渡し文書の整備についての注意事項についても説明された。最後に、診療に関するトラブルが増えていることからより適正なカルテ記載が求められているため、診療録開示などに耐えられるカルテ記載の充実に努めていただきたいとまとめられた。

大平講師による「歯科口腔リハビリテーション料について」の講演では、歯科口腔リハビリテーション料について説明され、算定方法についても説明された。

山根主任薬剤師による「処方箋の発行に際して」の講演では、入力方法について具体的事例をあげ、気をつけるべき点や間違いやすい点について説明があり、薬局からのお話をお話いただいた。

臨床実習における患者同意についてや、カルテ記載の際の算定方法および注意点、処方箋の発行方法について知ることができた今回の研修会は、保険医のみならず、歯科医療に携わる水道橋病院のすべての教職員にとって、大変有意義な内容となった。

2023年度第3学年学外セミナー開催

2023年9月27日（水）から28日（木）までの2日間、かずさアカデミアパーク（千葉県）において、2023年度第3学年学外セミナーが開催された。本セミナーは「歯科大学生としての学修の心構え」、「How to learn, how to study」、「キャリアパス形成」の3点を目的としている。

1日目は、かずさアカデミアパークに到着後、午前11時から開講式、本学卒業生の石井大貴大学院生による「卒業生からのメッセージ」と題した講演が行われた。続いて、田口円裕教授による「キャリアパス形成について①」の講演が行われた。昼食後からは「これから学ぶ臨床系科目の概略説明」が上田貴之教授より行われた。説明後、阿部伸一教務部長より「グループ討議の概要説明」があり、午後1時25分から1回目のグループ討議を行った。最終日に行われる発表会では、各グループがあらゆる分野に対する臨床系科目を学ぶための方略を発表する。その準備としてグループ討議の時間に情報収集をし、立論スピーチの作成や質疑応答を行っていく。午後5時30分からは、大久保真衣准教授による「キャ

リアパス形成について②」の講演が行われた。講演後、午後6時10分から夕食をとった。夕食は円卓を囲んでの形となり、各グループでチューターの教員を囲み、和やかな時間を過ごした。夕食後は午後9時まで2回目のグループ討議を行った。

2日目は、朝食後の午前9時より3回目のグループ討議を行い、発表に向けて、チューターの指導を受けながら活発に討議が進められた。昼食後の午後12時20分より発表が行われた。どのグループも多くの討議を重ねることで作り上げた学びの方略を視覚的にわかりやすくするなど、工夫を凝らしたスライドで発表を行った。

発表後、平田創一郎教授より「共用試験の公的化」と題した講演が行われた。その後、山本 仁副学長よりグループ発表の講評が行われた。閉講式を終えたのち、バスにて水道橋校舎新館に戻り、2日間にわたる学外セミナーの全日程を無事に終了した。



▲田口教授の講演の様子



▲円卓で夕食をとる学生の様子



◀グループ発表を行っている会場の様子

第316回東京歯科大学学会（総会）開催

2023年10月21日（土）と22日（日）の2日間、水道橋校舎新館において第316回東京歯科大学学会（総会）が開催された。

1日目は、午前9時から第1・第2講義室にて一般口演12題の発表と、第3実習講義室にて5題の示説掲示が行われた。午前11時30分からは、第2講義室にて「令和5年度東京歯科大学学会評議員会・総会」が開催された。このなかで、東京歯科大学学会会則により、加藤哲男名誉教授、高野正行

客員教授が名誉会員に推薦されることが報告された。

2日目は、午前9時から第1・第2講義室にて一般口演12題の発表と、第3実習講義室にて5題の示説発表・討論が行われた。午後1時からは血脇記念ホールにて、今年度末に定年を迎えられる本学3名の教授による特別講演が行われた。

なお、1日目は7商社、2日目は8商社の参加による商品展示が第3実習講義室内で行われた。

1. 歯科社会保障学と産業歯科保健の10年間の教育研究とこれからの展望
..... 上條英之教授（歯科社会保障学）
2. 教育と研究について 東 俊文教授（生化学講座）
3. 東京歯科大学での46年間 古澤成博教授（歯内療法学講座）

◀特別講演の演題と演者



▲講演する上條教授



▲講演する東教授



▲講演する古澤教授

第316回東京歯科大学学会シンポジウム開催

2023年10月21日（土）午後1時より、水道橋校舎新館血協記念ホールにて、第316回東京歯科大学学会シンポジウムが開催された（ウェルビーイングプロジェクトとの共催）。本研究プロジェクトでは、関連分野の有識者による共催シンポジウムを行うことで、口腔機能維持・改善に関連する最先端の基礎的・臨床的な知識を学ぶ機会を設け、プロジェクトのさらなる活性化を図っている。今回のシンポジウムテーマは「口腔内と腸内細菌叢の理解から紐解く歯周疾患—口腔からのウェルビーイング社会創生への道しるべ—」である。

腸および口腔に存在する多様な細菌叢は、さまざまな疾患の発症に関与するとわかってきている。また最近では、これ

ら口腔と腸の細菌が関連し、疾患に繋がることも注目されている。そこで本シンポジウムでは、口腔内と腸内細菌叢が及ぼす歯周疾患、ひいては全身性疾患に対する理解を深めることを目的として、本領域のエキスパートによる講演が行われた。一戸達也学長による開会の辞の後、下記の先生方からご講演いただき、活発な質疑応答が繰り広げられた。そして総合討論を行った後、片倉 朗副学長による閉会の辞でシンポジウムは締めくくられた。

参加者180名以上（会場とオンラインの合計）と大盛況であり、本研究プロジェクトのさらなる躍進が期待できる有意義なシンポジウムとなった。

1. 口腔のディスバイオーシスについて

.....石原和幸先生（本学微生物学講座教授）

2. 腸管の粘膜免疫学創生からの次世代ワクチン開発について

.....清野 宏先生（千葉大学卓越教授、カリフォルニア大学教授）

3. 腸内細菌叢を介した歯周病の増悪化について

.....田中芳彦先生（福岡歯科大学教授）

4. 唾液メタボローム解析による口腔内健康度予測について

.....久保庭雅恵先生（大阪大学准教授）

5. ロ—腸—全身軸に基づく病因メカニズムについて

.....山崎和久先生（理化学研究所客員主管研究員、新潟大学名誉教授）

◀講演の演題と演者



▲講演する石原先生



▲講演する清野先生



▲講演する田中先生



▲講演する久保庭先生



▲講演する山崎先生



◀シンポジウム後の集合写真

2023年度第6回水道橋病院教職員研修会開催

2023年10月26日（木）午後6時より、オンラインにて、2023年度第6回水道橋病院教職員研修会が開催された。今回は、「医療従事者が注意すべきウイルス感染症と健康管理について」と題して内科科長の山岸由幸准教授による講演、「診療情報提供料Iと診療情報共有料について」と題して水道橋病院診療録指導委員会委員の大野啓介講師による講演が行われた。

山岸准教授による「医療従事者が注意すべきウイルス感染症と健康管理について」の講演では、ウイルス感染の解説にはじまり、感染予防方法、新型コロナウイルス、インフルエンザの概要、症状、診断、流行、予防などについて説明され

た。続いて、ノロウイルスなどの感染性腸炎、4種抗体ウイルス、血液曝露対象ウイルス、新型コロナウイルスの一般的経過、診断方法、感染様式についての説明があった。最後に、教職員のメンタルヘルスについての説明があった。

大野講師による「診療情報提供料Iと診療情報共有料について」の講演では、診療情報提供料Iについての説明、算定する際の注意事項などについて説明があった。

今回の研修会は、インフルエンザをはじめとするウイルス感染症の知識やカルテ記載にかかわる必要な知識について、教職員が正確に認識することにつながる大変有意義な研修会となった。

第4回入試ガイダンス・オープンキャンパス開催

2023年10月28日（土）午後2時より、水道橋校舎本館において、東京歯科大学への入学を希望する受験生を対象とした入試ガイダンス・オープンキャンパスが開催された。

今回は東歯祭と同日に開催したこともあり、東歯祭のあらゆる催しを体験した受験生や保護者が参加した。

参加者に対して、本学の教育理念やカリキュラム、国家試験合格状況、学生生活、卒後進路状況、2024年度入学試験

の概要などについて説明を行い、本学部生によるElective Studyの報告も行われた。そして、最後に各入試科目において高校での学習のポイントや入学までに身につけて欲しいことを説明した。

その後、希望者を対象として第5学年生による解剖標本室、水道橋病院の見学会や、教務部・学生部の教職員との個別進学相談が行われ、充実した第4回開催となった。



◀ Elective Studyの報告している会場の様子

2023年度解剖諸霊位供養法会開催

2023年11月8日（水）午後2時30分より、水道橋校舎新館血脇記念ホールにおいて、2023年度解剖諸霊位供養法会が執り行われた。

解剖諸霊位供養法会は、ご逝去された故人様のご遺族と大学幹部、短期大学幹部、大学関係者、東京歯科大学白菊会会長、歯学部第2学年学生が参列した。

本学開設以来、歯科医学教育と研究のため、尊いご遺志を持って献体いただいた4千有余柱の諸霊位に対し、深く感謝

の意を捧げご冥福をお祈りした。また、真珠院導師により誦経が行われ、一戸達也学長が祭文を奉読したのち参列者による献花が行われた。

つづいて、学生を代表して第2学年の柴田 咲さんより挨拶があり、次にご遺族を代表して乾 忍様よりご挨拶をいただき、本年度の解剖諸霊位供養法会は滞りなく終了した。

その後、ご遺族ならびに大学関係者が真珠院（東京都）へ墓参し散会となった。



▲祭文を奉読する一戸学長



▲学年代表献花の様子



▲会場風景



▲会場風景



◀学年代表挨拶

■ 水道橋校舎本館防災訓練実施

2023年11月9日（木）午前11時より、水道橋校舎本館において、水道橋校舎ビル管理会社である三井ビルマネジメントの協力のもと防災訓練が実施された。当日は、本館5階～11階を対象として、本館5階給湯室での火災発生を想定した実践さながらの消火・避難訓練が行われた。

本館裏駐車スペースへの避難完了後に、三井ビルマネジメントの柳沢弘正氏と柴田文仁大学事務部長より挨拶をいただき、その後、水消火器による消火訓練が実施され、すべての訓練が無事に終了した。



◀挨拶をする柴田部長（左）と柳沢氏



▲水消火器による消火訓練の様子



▲避難した際の様子

第490回大学院セミナー開催

2023年9月5日(火)午後5時30分より、水道橋校舎本館第2講義室において、第490回大学院セミナーが開催された。講師として東京慈恵会医科大学放射線医学講座教授の尾尻博也先生をお招きし、「画像診断に関する事項」についてご講演いただいた。尾尻先生は、頭頸部の画像診断について多くの症例画像とともに詳細な情報が盛り込まれ、歯科放射線医にとっても非常に学びの多い『頭頸部の臨床画像診断学 改訂第4版』（南江堂）の著者である。

画像の所見を視認して、画像診断学の知識と理解により解釈して、さまざまな診断を行い、臨床医に対して必要な情報を提供するプロセスが画像診断であり、その正しい情報伝達を妨げる原因として、単なる思い込み、直感や錯覚、不正確な表現などがある。これについて尾尻先生は、具体例を示し

て解説され、系統的な過不足ない評価の重要性を示された。また、近年大きな問題となっている画像情報共有不全（画像診断報告書の内容が依頼医の確認不足や不十分な確認、外来や救急からの入院、主治医や主科の変更など、さまざまな状況下で画像情報が伝わらず臨床に適切に反映されないこと）に関して、東京慈恵会医科大学での経験と対策、問題点についてご解説いただいた。

画像診断領域における臨床サイドの話ではあったが、物事の解釈における注意点や、情報を共有することの必要性や難しさなどを知ることにより、研究における解釈や情報共有についても応用、再考できると考えられた。歯科医師である本学の大学院生にとって、非常に有益なセミナーであった。

第491回大学院セミナー開催

2023年9月21日(木)午後5時30分より、水道橋校舎本館第2講義室において、第491回大学院セミナーがウェルビーイングプロジェクトとの共催にて開催された。講師として本学客員教授、カリフォルニア大学ロサンゼルス校歯学部教授およびワイントロープ再建生体工学研究所教授の西村一郎先生をお招きし、「Microbial extracellular DNA (eDNA) and AG fibroblasts in periodontal initiation」についてご講演いただいた。

本講演では、まずマウス臼歯部縫合糸結紮モデルを用いて歯周ポケット形成の機序の解明に関する最近の研究内容の紹介があった。この研究では、カテプシンK探索マーカーやSingle cell RNA sequenceなどで歯肉細胞を探索し、歯肉線維芽細胞のサブpopulationであるAG fibroblastが歯周ポケットの初期形成に関与していることを示した。また、マ

ウス臼歯部縫合糸結紮モデルの細菌叢はヒト口腔細菌と著しく異なるために、マウス口蓋歯肉粘膜にヒト口腔細菌バイオフィルムを塗布する歯周病モデルを開発し、このモデルでもAG fibroblastが活性化されることを確認した。さらに、バイオフィルム内の細菌由来のeDNAがToll-like receptor 9 (TLR9)を介して、AG fibroblastの活性化を促している可能性を示した。eDNAに関しては、顎骨疾患プロジェクトが2019年に開催した国際シンポジウムに参加された西村先生が本学微生物学講座の石原和幸教授との雑談で細菌のeDNAのことを聞き、そこからヒントを得て行った研究とこのことであった。このようなチャンスから歯周病初期発症のメカニズムに迫る斬新な研究成果を産み出した西村先生の研究センスは優れた研究者の証であることを再確認した講演であった。

第493回大学院セミナー開催

2023年10月12日(木)午後5時30分より、水道橋校舎本館第2講義室において、第493回大学院セミナーが開催された。講師として市川総合病院放射線科の池田耕士教授より、「中枢神経と頭頸部のMRI診断の進め方」という演題で講演いただいた。池田先生は、1986年に関西医科大学を卒業後、関西医科大学放射線科学講座に入局し、ウィスコンシン医科大学への留学を経て、関西医科大学放射線科学講座助手、講師、准教授、東京慈恵会医科大学放射線医学講座准教授などを歴任し、現在は市川総合病院放射線科教授を務めている。頭頸部の画像診断に精通し、唾液腺の診断など数々の解説や総説論文を執筆されている。

今回のセミナーでは、唾液腺や歯科領域とも近接する中枢神経領域、咽頭・喉頭の画像診断についてMRIを中心に講演

いただいた。MRIのT1強調画像、T2強調画像、STIR、FLAIR、T2*、拡散強調画像などの各シーケンスの適応や所見の特徴のつかみ方、CT診断との比較といった基本的な内容から、MR AngiographyやBody diffusion、最新の体動補正法など応用的なものまで、実際の症例画像を交えて幅広く解説いただいた。

頭頸部の解剖構造は複雑で、画像診断において難渋することは少なくはないが、唾液腺や中枢神経系、咽頭・喉頭などの領域の画像診断について、豊富な知識と経験に基づいて明快に解説いただいた。歯科領域と近接し、生命やQOLにも深く関わる中枢神経系、咽頭・喉頭領域の画像診断への造詣を深めることのできる講演であり、歯科医師である本学の大学院生にとって非常に有益なセミナーであった。

2023年度大学院Elective Study Program実施

2023年9月9日（土）から18日（月）に、US-JAPAN FORUM主催、国内大学連携カリフォルニア・イノベーション研修が開催され、本学大学院より社会歯科学講座の石井大貴先生（大学院2年）とオーラルメディスン・病院歯科学講座の長谷川 陽先生（大学院2年）が大学院Elective Study Programとして参加した。

本プログラムは、US-Japan Forumと複数の国内大学によ

る合同海外研修プログラムで、カリフォルニア州サンノゼ市近郊のシリコンバレーを中心に、米国の大学や企業を訪問し、異なる文化や価値観を学んだ。さらに、サンノゼ州立大学にて開催する「日米未来フォーラム」に参加し、日米間の歴史を学び、今後の日米関係や世界のあるべき姿についてのディスカッションと発表を行った。

2023年度Elective Study Program報告①

カリフォルニア・イノベーション研修報告

社会歯科学講座 大学院2年次 石井大貴

2023年9月9日（土）～9月18日（月）、およそ4年ぶりに開催された大学院Elective study（US-Japan Forum主催 国内大学連携カリフォルニア・イノベーション研修）に参加させていただきましたのでご報告いたします。

はじめに、このような貴重な機会を与えていただいた井出吉信理事長、一戸達也学長、大学院関係の皆様、本研修中で指導いただいた主催者の井手祐二先生に厚く御礼を申し上げます。そして私自身の学会発表、学部生への講義・実習と講座のスケジュールが立て込む中で参加応募を許可して下さった平田創一郎教授、大澤航介助教に深謝申し上げます。

私は現在、歯科医療が抱えるさまざまな問題を社会科学的地見地から研究する講座に所属しています。昨年大学院に入學し順風満帆な日々を送らせていただいていた一方で、歯科医療のみならず日本の未来をよくすることを考えた

き、「海外から日本を客観的に考察することも改善を図る上で必要なのではないか?」といった疑問を抱くようになりました。しかし、その答えを導き出すような機会との縁はなく、英語をツールに見識を広める重要性に気づいていながらも、海外に行き意見を交換するといった行動までは起こさず日々を過ごしていました。そのような私にとって、先端技術のメッカであるシリコンバレーを内包する米国カリフォルニア州サンフランシスコ・ベイエリアにて開催された本研修は、まさに人生の転機ともいえる一大イベントとなりました。

本年度は私を含め、全国から5名が参加しました。人数こそ例年に比べ小規模だったものの、異なる分野で学業に励む方々と海外で勉強する経験は、何事にも代えがたい貴重なものとなりました。少人数であることを生かした効率的かつ濃密な滞在を井手先生が実現して下さったこと



▲ Intel Museumにて：2023年9月12日(火)



▲日米未来フォーラムにて：2023年9月15日(金)

も、充実した研修となった大きな要因です。早朝より井手先生みずからその日の研修・見学施設に連れて行ってくださり、夜はシリコンバレーを拠点に日米でご活躍されている起業家の方、スタートアップ企業の社長、そしてエンジニアの方々などによる講演会やディスカッションといった非常に有意義な時間を設けてくださいました。どの方も確固たる信念を持っておられ、人生を謳歌されている姿には刺激を受けずにいられませんでしたし、「日本を客観的に見て行動することは未来をよくするためにも重要です」と力強くご教示いただいたことは抱いていた疑問への1つの答えとして、またいくつもの選択肢がある私の前途を照らす光明のような気がしました。

なお、本研修は「Future life with AI technology」をサブテーマとし、AI技術で変わる未来の生活について研修参加者各々がアイデアを練り、メインイベントである日米未来フォーラムにてプレゼンテーションを行う企画がありました。私は歯科医療へのアクセス不均衡の問題解決にAI技術を応用する未来について発表しました。日本とアメリカ、両国共通の問題を最新技術の力によって解決できないかと考えたのです。恥ずかしながら話す英語は流暢さに欠けましたが、アイデアを何としても伝えたい意思が緊張に勝り、気づいたときにはその場を楽しむ自分がいました。さらに、聴衆の方から好評をいただいたことで自信が生まれ、本アイデアの具現化に加えて英語能力とプレゼンテーション能力のさらなる向上を図ることを決意しました。

本研修全体を振り返り思うのは、失敗を恐れず行動を起こした1人1人の成功への想いを真摯に称えあい、互いに高めあうことでイノベーションを起こす環境を醸成しているサンフランシスコ・ベイエリアの風土から、私たち日本



▲研修最終日、サンフランシスコ国際空港にて井手先生を囲んで：2023年9月17日(日)

人が学ぶべきものは多いということです。それは昔、新世界への抱負と不安を胸に横浜から単身渡米の途につき、苦難の末、日本の歯科医学教育の開拓者となった高山紀齋先生や、日本人としてはじめて米国本土で歯科医院を開業した一井正典先生の崇高なフロンティアスピリットにも同じことがいえると考えます。お二方の共通点として、米国におけるキャリアの起点がサンフランシスコだったということと、本学の礎を築かれたことがあります。

研修最終日の朝、私の心に芽生えたのは、信念とビジョンを持ったグローバルな職業人として社会貢献を行う歯科医師になるという強い思いでした。この思いを抱き本学において研究・教育に邁進し、ひいては日本や世界の発展に繋がる何かを生み出せたら、こんなに幸せことはないだろうと考えます。本研修をきっかけに、真の国際人を目指します。

2023年度 Elective Study Program 報告②

カリフォルニア・イノベーション研修報告

オーラルメディスン・病院歯科学講座 大学院2年次 長谷川 陽

9月中旬にカリフォルニア・イノベーション研修に参加させていただいたのでご報告いたします。

今回の研修では、歯科という限られた視点にとらわれず、異なる分野を専門とする学生や、研究者、技術者の方とのコミュニケーションを通じて、世界がどのようなことに注目しているのかを学び、広い視野を身につけることを目標としておりました。研修の中で、シリコンバレーの企業や、3つの大学を訪問しましたが、共通して感じたことはさまざまな国や地域にルーツを持つ人が入り混じって

ることで、そこに日本人が圧倒的に少ないことです。日本人は言語の壁などを理由として海外に出る人が少なく、日本国内で日本の価値観だけの仕事で満足してしまっていると感じ、まず外に出て多様な価値観に触れてみないことには国際的な視野は身につかないと痛感いたしました。現地の学生とのディスカッションを通して、自分の英語力の不足を改めて自覚し、もっと努力しなくてはと思いましたが、この気づきもこの研修に参加したことで得たことであるし、自分の知らない世界に飛び込んでみるということが

いかに重要かということを学びました。

私は研修の中で、各大学訪問がもっとも印象的で楽しい思い出となりました。サンノゼ州立大学では、工学部の研究室の見学や学生交流の中で、自分が普段行っている医療系の研究とはまったく異なる空間に触れることができました。この研修のテーマはAIについて学ぶことでしたが、学生交流では私たちが考えたAIのアイデアに対し、学生が積極的に意見をくださり、教授や学生の垣根なく皆が自由に意見を出し合える環境が新たなアイデアを生み出すのだと感じました。カリフォルニア大学バークレー校では、工学部に在籍する学生がほぼアジアからの留学生だったことに驚きました。彼らがなぜアメリカで研究しようと考えたのか、留学に際しての苦労話など、学生ならではの会話が楽しめたことが、強く印象に残っております。スタンフォード大学では、医学部の研究室で実験施設や動物舎を見学し、普段自分が使っている研究室との共通点も多く、海外での研究をより身近に感じることができ、自分もここで研究してみたいという憧れの気持ちも生まれました。各大学で多くの学生と連絡先を交換し、相談しあえる関係を築けたことも、この研修で得た財産だと感じます。

また企業訪問、現地で活躍する起業家や研究者の方々の講演を伺うことができたこと、日米未来フォーラムへの参加などは、普段、歯科関係の狭い世界で過ごしている私にとって、日常では経験することのできない充実した時間となりました。現地で活躍する方々の講演では、人間関係の

築き方や、ビジネスを成功させるための秘訣など、どこの国で働くかにかかわらず人生において大切なことをたくさん伺うことができました。特に皆様が共通しておっしゃっていた、「人生に失敗はつきものだが目標をもって諦めずにいたら何とかかなる」という言葉が印象的でした。日米未来フォーラムでは英語のプレゼンテーション自体がはじめてだったので、プレゼンテーションに必要な英語や、見やすいスライドの作り方なども学び、プレゼンテーションの後に、いらしてくださった方のお話や質問を伺うことで、自分のプレゼンテーションの足りない点や、よかった点などに気づくことができたので、今後に生かしていきたいと思います。

今回の研修でさまざまな方との交流を通じ、何かに挑戦することに年齢は関係ないこと、諦めることは簡単だけれども諦めないでやってみた先に得るものがあるのだと強く感じました。年齢を重ねるにつれ、何か目標を掲げることに自ら限界を決めてしまっていました。今後は自分のやってみたいことに正直に、今できる努力から始めていきます。

最後に、このようなすばらしい機会を与えてくださった井手祐二先生、講演をしてくださった方々や各大学の関係者や学生の皆様、本学大学院の先生方・関係者の皆様に感謝いたします。今回得たものを、自分の中だけで完結させるのではなく、周りの人たちに伝え、世の中に還元していきたいと感じました。



▲サンノゼ州立大学・航空学科にて



▲サンノゼ州立大学での学生交流



▲カリフォルニア大学バークレー校での学生交流



▲スタンフォード大学にて



▲スタンフォード大学にて



▲日米未来フォーラムにて

筒井 新レジデント 令和4年度日本スポーツ歯科医学会学会賞 (メディカルテクノロジー賞) を受賞

2022年12月3日(土)と4日(日)に、銀座プロッサム中央会館(東京都)において開催された第33回日本スポーツ歯科医学会学術大会にて、口腔健康科学講座スポーツ歯学研究室の筒井 新レジデントが令和4年度日本スポーツ歯科医学会学会賞(メディカルテクノロジー賞)を受賞した。本賞は学術大会の一般口演・ポスター発表の中で、最優秀演者に対して授与される。筒井レジデントは「1カ月間のガム摂取による咬合状態および咬筋活動変化」を発表し、その内容を評価されての受賞となった。

筋組織へ十分な血流や酸素が速やかに供給されることは、持続的な筋活動を行い筋質や筋疲労の改善を図る上でも重要な役割を果たす。これまで、咀嚼筋の活動性やトレーニング効果は、筋電図振幅や周波数分析、咀嚼能力、咬合力などの観点から評価されており、筋酸素動態の観点からの評価が行われていないのが現状であった。本研究は、健常有歯顎者に対して1カ月間のガム摂取を実施し、介入前後に等尺性収縮時の近赤外分光法による咬筋酸素動態分析およびデンタルプレスケールⅡによる咬合接触圧分析を実施した。結果として、介入後に咬筋活動時の酸素化ヘモグロビンの増加および組織酸素飽和度の回復時間の短縮を示し、ガム摂取により咬筋の有酸素能に影響を及ぼすことが明らかとなった。



▲受賞した筒井レジデント(右)と中島一憲教授

本演題は、2023年11月18日(土)から19日(日)に福岡歯科大学50周年記念講堂(福岡市)において開催された第34回日本スポーツ歯科医学会学術大会にて、安井利一理事長より賞を授与された。

剣道部が第55回全日本歯科学学生総合体育大会にて優勝

剣道部が、第55回全日本歯科学学生総合体育大会にて見事優勝を勝ち取った。

前号（310号）発行時は「準優勝」となっていたが、部門

主管校より成績順位に誤りがあった旨、10月13日付報告があった。

改めて剣道部の輝かしい功績をたたえたい。



▲相手をいなくす主将の木住野剛月さん



▲見事優勝を勝ち取った剣道部員と村松 敬部長（後列中央）

第6学年の渡會敦耶さんと第5学年の中山結仁さんが混合ダブルスにて準優勝

2023年10月9日（月）、東京体育館（東京都）にて開催された「第二回東京体育館杯卓球大会」において、第6学年の渡會敦耶さんと第5学年の中山結仁さんによる混合ダブルスチームが中上級部門にて準優勝の好成績を修めた。



▶準優勝の賞状を掲げる第5学年の中山さん（左）と第6学年の渡會さん

第55回東歯祭慰労会ならびにクラブ成績報告会開催

2023年10月29日（日）午後6時より、東京ドームホテル（東京都）において、第55回東歯祭慰労会ならびにクラブ成績報告会が開かれ、東歯祭報告、歯学体総合成績報告のほか、参加主将から各クラブの成績について報告を行った

一戸達也学長からの挨拶に始まり、澁谷國男同窓会長、西山 潔父兄会長、また株式会社モリタ取締役の島田昇三様からご祝辞を賜り、各賞が授与された。



▲吉田颯樹東歯祭実行委員長から一戸達也学長へ開催報告



▲健闘し勝ち取ったカップの数々



▲切磋琢磨した仲間とともに（水泳部）



▲感動の共有を再び仲間で（ゴルフ部）



▲歯学体と東歯祭の映像も流れる



▲3本締めで閉会した

2023年度学術情報セミナー開催

2023年11月8日（水）午後6時より、水道橋校舎本館第2講義室およびオンラインによるハイブリッド形式で、2023年度学術情報セミナーが大学院セミナーとの共催で開催された。講師にエルゼビア・ジャパン株式会社の前田広正氏を迎え、「アクセプトされやすい論文とは？～出版社の立場から～」と題した講演をいただいた。

論文投稿のプロセスにおいては査読を中心に説明があり、公開されている査読コメントが事例として紹介された。論文執筆における英語の重要性については、時制や文法、その他のヒントから適切な科学英語の使用例が示された。論文の構造からは多くのエディターが推奨する論文執筆の順番とセクションごとの注意点が紹介された。適切なジャーナル選択にはAims and Scopeと出版までの期間の確認、投稿規程を読むことの重要性が説明され、ジャーナル評価指標の確認ツールとしてScopusのデモがあった。ハゲタカジャーナルに関する注意喚起では、その仕組みと見極めるポイントが説明された。論文執筆におけるAIツール利用に関しては潜在的な利点とリスク、COPE（Committee on Publication Ethics）声明

におけるAIツールとオーサーシップに関する内容の紹介、エルゼビアとしてのAI利用における著者の責任が説明された。

会後はオンデマンド動画による試聴希望もあり、アンケート結果からも満足と回答した参加者がほとんどで、大変好評を得たセミナーとなった。



▲講演する前田氏

テーマ展示「認知症と歯科」実施

2023年9月、水道橋校舎本館図書館において、「認知症と歯科」をテーマとして、認知症患者における歯科治療の注意点を記した図書や一般的な認知症に関する図書、関連する新聞記事、パンフレットなどの展示を実施した。期間中、閲覧はもちろん貸出も多くあり、大変有意義なものとなった。

毎年9月は「世界アルツハイマー月間」である。本展示は千代田区が認知症普及啓発の取り組みの一環として実施している「ちよだはあとボックス」との協同事業として行ったものである。



◀テーマ展示「認知症と歯科」の様子

ハイデルベルク大学より来訪

2023年11月7日（火）、本学姉妹校であるハイデルベルク大学歯学部口腔外科のJürgen Hoffmann教授と、Georg Eggers准教授が来訪した。

当日は、水道橋病院の見学を行った後、一戸達也学長への表敬訪問を行った。一戸学長が7月に姉妹校協定調印式へ出席するためにハイデルベルク大学を訪問したことや、現在本

学のみが実施している学生派遣について、今後は先方からの派遣も実施し双方向の積極的な学生交流を促進するべく検討することが話し合われた。

その後、口腔外科の手術見学が行われ、口腔外科の執刀医と手術について会話をしたり、術野を映し出すモニタを凝視したりする様子が見られた。



▲小林 裕助教（右）による病院見学の様子



▲表敬訪問後の記念撮影（左から、一戸学長、Hoffmann教授、Eggers准教授、片倉 朗副学長）



▲高野正行客員教授（右）と談話の様子



▲手術内容を説明する菅原圭亮准教授（中央）

2023年度第3回オープンキャンパス・入試説明会開催

2023年8月19日（土）、水道橋校舎本館第一講義室において、短期大学への2024年度入学希望者を対象とした第3回オープンキャンパス・入試説明会が開催された。第3回は、受験希望者と保護者を合わせて132名の参加者であった。

当日は、集合した参加者から施設見学が順次実施された。水道橋病院診療室、水道橋校舎本館西棟短期大学実習室、水道橋校舎本館短期大学教室および実験室のルートで、途中の診療室や実習室、実験室には短期大学教員および専攻科生を配置し、適宜説明が行われた。鳥山佳則短期大学学長の挨拶に続き、短期大学の概要、学生生活、学生募集要項、入学試

験などについての説明が菅野亜紀短期大学教務部長および小林友忠事務部長により行われた。休憩をはさみ、総合型選抜試験対策として、模擬授業を聴講し例題に解答するという体験が行われた。参加者は緊張した面持ちで慣れない教室にもかかわらず一生懸命聴講し、例題に取り組んでいた。その後、水道橋校舎本館13階のラウンジにおいて、希望者に対して個別相談が行われた。相談内容は、入学試験、学生生活、専攻科への進学、学費・奨学金、授業内容、就職先などの多岐にわたり、教職員および専攻科生が対応にあたった。



▲水道橋校舎本館 14 階短期大学実験室で施設見学する参加者



▲模擬授業を聴講する参加者

2023年度修学指導に関する保護者説明会開催

2023年11月4日（土）午前9時より、オンラインにて、2023年度修学指導に関する保護者説明会が開催され、第1学年から第3学年までの計109名の保護者が出席した。

永井由美子学生部副部長の司会のもと、全学年の保護者全体へ鳥山佳則短期大学学長による挨拶、安松啓子研究部長による卒業研究の実施方針、菅野亜紀教務部長および片田英憲

学生部長による修学指導に関する説明が行われた。その後、学年別に分かれて、学年主任、副主任により学生の修学状況および学生生活に関する指導方針などの説明が行われた。また希望者などを対象とした保護者および学生との三者面談が学年別にオンラインで実施された。

卒業研究発表会開催

2023年9月22日（金）午前9時40分より、水道橋校舎新館血協記念ホールにおいて、短期大学歯科衛生学科第3学年51名による卒業研究発表会が開催された。

第2学年の9月頃より本格的に開始される卒業研究は、日進月歩の歯科医療に的確に対応できるよう、広い視野を持った研究マインドを培うことを目的としている。会場は、第1学年、第2学年および専攻科生の学生のみならず、論文指導にあたった指導教員など、多くの関係者により埋められた。研究発表は学会形式をとり、受付、座長、タイムキーパーなどの役割をすべて第3学年の学生が受け持ち運営を行った。

菅野亜紀短期大学教務部長進行のもと、鳥山佳則短期大学学長による開会の挨拶から始まり、各学生による研究成果の発表はスライドを用いた4分間の口頭発表と2分間の質疑応答で進行された。学生達は血協記念ホールの壇上での報告に、緊張の中にも各自が今まで行ってきた研究成果について懸命に発表していた。研究テーマは基礎から臨床まで幅広い分野にまたがり、それぞれがとても興味深い内容であった。また質疑応答では、各学年の学生からも研究内容の核心に踏み込んだ多くの質問が出され、活発な討議がなされた。

本研究成果は、学生1人1人の努力と、本学および短期大学の指導教員による長時間にわたる親身な指導が結集した結果として、卒業研究論文集としてまとめられた。研究発表会は終日にわたって行われ、安松啓子短期大学研究部長の総評をもって盛会裡に閉会した。



▲卒業研究報告発表会の様子



▲卒業研究発表会を終えての集合写真

2023年度臨床・臨地実習開始式開催

2023年10月2日（月）午前10時より、水道橋校舎本館第2講義室において、第2学年53名の臨床・臨地実習開始式が挙行された。

片田英憲短期大学学生部長の司会のもと、鳥山佳則短期大学学長による訓辞に続き、山下秀一郎水道橋病院長、松浦信幸

市川総合病院短期大学教育担当、片倉 朗千葉歯科医療センター長による挨拶を賜り、次いで臨床実習生を代表して大須賀彩乃さんが誓詞を述べた。臨床実習生は入学後1年半における講義、基礎実習で獲得した学修成果をさらに深めるべく、緊張の面持ちで式に臨み、決意を新たにしていた。



▲松浦市川総合病院短期大学教育担当による臨床実習生への挨拶



▲誓詞を述べる臨床実習生代表の大須賀さん



▲臨床・臨地実習開始式を終えての集合写真

国内見学者来校

水道橋校舎・水道橋病院

なし

海外出張

■ピッセン弘子特任教授(水病・眼科)

European Society of Cataract and Refractive Surgeons (ESCRS)への参加のため、9月6日(水)から9月13日(水)までオーストリア・ウィーンへ出張。

■南 慶一郎非常勤講師(水病・眼科)

European Society of Cataract and Refractive Surgeons (ESCRS)への参加・発表のため、9月7日(木)から9月12日(火)までオーストリア・ウィーンへ出張。

■西井 康教授(歯科矯正学)

第14回台湾口腔矯正医学会への参加及び会議出席のため、9月7日(木)から9月10日(日)まで台湾・台北へ出張。

■服部雅之教授(歯科理工学)

2023年ISO/TC106年次会議への出席のため、9月14日(木)から9月21日(木)までオーストラリア・シドニーへ出張。

■小林 裕助教(パーシャルデンチャー補綴学)

2023CED-IADR/NOFへの参加・発表のため、9月19日(火)から9月25日(月)までギリシャ・ロードスへ出張。

■米澤英雄講師(微生物学)

AMED-SICORP事業でのリトアニアとの研究交流のため、10月8日(日)から10月14日(土)までリトアニア・カウナスへ出張。

■四ツ谷 護講師、酒井貴徳講師(クラウンブリッジ補綴学)
ゼブリス社セミナー参加及びゼブリス社との研究打ち合わせのため、10月11日(水)から10月16日(月)までドイツ・アルゴイへ出張。

■溝口利英教授(口腔科研究センター)、伊藤慎一郎助教(薬理学)

アメリカ骨代謝学会への参加・発表のため、10月12日(木)から10月18日(水)までカナダ・バンクーバーへ出張。

■東 俊文教授(生化学)

アメリカ骨代謝学会への参加・発表のため、10月13日(金)から10月17日(火)までカナダ・バンクーバーへ出張。

■澁川義幸教授、木村麻記講師(生理学)

The 10th Federation of the Asian and Oceanian Physiological Societies Congressへの参加・発表のため、10月31日(火)から11月3日(金)まで韓国・大邱へ出張。

■片倉 朗教授(口腔病態外科学)

第9回国際口腔腫瘍学会世界大会(IAOO2023)への参加のため、11月1日(水)から11月3日(金)まで韓国・仁川へ出張。

■太田友香講師(水病・眼科)

American Academy of Ophthalmologyでの発表のため、11月2日(木)から11月8日(水)までアメリカ合衆国・サンフランシスコへ出張。

■南 慶一郎非常勤講師(水病・眼科)

American Academy of Ophthalmologyでの発表のため、11月2日(木)から11月7日(火)までアメリカ合衆国・サンフランシスコへ出張。

■齋藤 淳教授、今村健太郎講師、北村友里恵助教、久永理央大学院生、村上 侑非常勤講師、小谷地 咲非常勤講師(歯周病学)

American Academy of Periodontology 109th Annual Meetingへの参加・発表のため、11月8日(水)から11月14日(火)までアメリカ合衆国・オースティンへ出張。

■西村達郎助教、林 優希レジデント、戒田直紀大学院生(歯科矯正学)

アメリカ南カリフォルニア大学歯科矯正学講座との相互研修のため、11月13日(月)から11月20日(月)までアメリカ合衆国・ロサンゼルスへ出張。

■阿部伸一教授(解剖)

台北医学大学歯学部5年生に対する臨床解剖学の講義のため、11月26日(日)から11月27日(月)まで台湾・台北へ出張。

2023年9月

		大学・短期大学・水道橋病院・さいかち坂校舎	市川総合病院	千葉歯科医療センター
1	金	短大水道橋病院臨床実習小委員会 [防火・防災安全自主点検日]	こどもサポートチーム運営会議	
2	土			
3	日	1～4年生夏期休暇終了(7/22～)		
4	月	1～4年生授業再開、口科研センター会議	薬事委員会 医療の質管理委員会 市川リレーションシップカンファレンス	医療連携部会
5	火	水病感染予防対策チーム委員会	緩和ケア委員会	リスクマネージャー部会 ICT部会
6	水	水病薬事委員会	臨床検査運営委員会	
7	木		感染制御委員会 プログラム委員会	診療録整備部会
8	金		がん薬物療法小委員会	
9	土			
10	日			
11	月	1～4年生前期授業終了		千葉校舎衛生委員会 研修管理小部会
12	火	1～4年生前期授業(予備日) 臨床教授連絡会、全体教授会、人事委員会	緩和ケア委員会	
13	水	4年生前期定期試験(～9/22)、 1～3年生前期定期試験(～9/28) 基礎教授連絡会、大学院運営委員会 大学院研究科委員会、水病リスクマネージメント部会	救急委員会 治験審査委員会・倫理審査委員会 ICU運営委員会、CPC	
14	木	第5回図書館事務連絡会	患者サービス向上委員会 脳卒中センター運営会議 地域連携委員会 手術室運営委員会	
15	金	第166回倫理審査委員会・第107回利益相反委員会 [環境清掃日][危険物・危険薬品廃棄処理日]	NSTカンファレンス 栄養管理委員会	
16	土			
17	日			
18	月	敬老の日		
19	火		緩和ケア委員会	
20	水	第3回図書委員会 [機器等安全自主点検日]	褥瘡対策委員会 診療材料検討委員会 輸血療法委員会 臨床倫理講演会	
21	木	TDCビル協議会 水病診療録指導委員会 水病病院運営会議・医局長会・医療安全管理委員会 水病感染予防対策委員会・個人情報保護委員会	部長会 労務管理担当マネージャー会議 説明と同意の質向上委員会 衛生委員会、内視鏡室委員会	千葉歯科医療センター医療連携講演会
22	金		総合防災訓練 リスクマネージャー会議 給食運営会議、業務改善委員会	
23	土	秋分の日		
24	日			
25	月	4年生後期授業開始	医療安全管理委員会 がんセンターボード	千葉歯科医療センター協議会 個人情報保護部会 医療安全管理部会 感染予防対策部会 薬事部会
26	火	衛生委員会、水病教職員研修会	クリニカルパス委員会 緩和ケア委員会 院内迅速対応システム検討委員会	

27	水	3年生学外セミナー(～9/28)、 5年生第1回総合学力試験 水病業務連絡会、第5回国際交流部運営委員会 水病データ管理者会議・診療録管理委員会	診療記録委員会・情報システム委員会 特定共同指導対策プロジェクト会議	千葉歯科医療センター業務連絡会
28	木		管理診療委員会 バスキュラーボードカンファレンス	
29	金	1～3年生後期授業開始		
30	土			

2023年10月

		大学・短期大学・水道橋病院・さいかち坂校舎	市川総合病院	千葉歯科医療センター
1	日			
2	月	[防火・防災安全自主点検日]		医療連携部会
3	火	水病感染予防対策チーム委員会	緩和ケア委員会	リスクマネージャー部会 ICT部会
4	水	水病薬事委員会	臨床検査運営委員会	
5	木		感染制御委員会 プログラム委員会	診療録整備部会
6	金	大学基準協会実地調査(～10/7) 短大水道橋病院臨床実習小委員会	こどもサポートチーム運営会議	
7	土			
8	日			
9	月	スポーツの日		
10	火	水病給食委員会	緩和ケア委員会	
11	水	水病リスクマネジメント部会	救急委員会 診療材料検討委員会 ICU運営委員会	
12	木		患者サービス向上委員会 手術室運営委員会 説明と同意の質向上委員会	
13	金			
14	土			
15	日	TDC ビル全館停電		
16	月	[環境清掃日] [危険物・危険薬品廃棄処理日]	医療安全管理委員会	千葉校舎衛生委員会 研修管理小部会 千葉歯科医療センター医局長会
17	火	水病褥瘡対策委員会、臨床教授連絡会 講座主任教授会、人事委員会	緩和ケア委員会	
18	水	大学院運営委員会、大学院研究科委員会		
19	木	第6回図書館事務連絡会、水病診療録指導委員会 水病病院運営会議・医局長会・医療安全管理委員会 水病感染予防対策委員会・個人情報保護委員会	特定共同指導1日目	
20	金	第167回倫理審査委員会・第108回利益相反委員会 [機器等安全自主点検日]	特定共同指導2日目 NSTカンファレンス	
21	土	第316回東京歯科大学学会・総会		
22	日	第316回東京歯科大学学会・総会		
23	月		がんサーボード	千葉歯科医療センター協議会 個人情報保護部会 医療安全管理部会 感染予防対策部会
24	火	衛生委員会	クリニカルパス委員会 緩和ケア委員会 外来運営委員会	

大学日誌

25	水	振替授業(金曜日分)、水病業務連絡会 第6回国際交流部運営委員会 水病データ管理者会議・診療録管理委員会	診療記録委員会・情報システム委員会 高難度新規医療技術等評価室運営会議 医療機器安全管理委員会 保険診療委員会 DPC 症例検討委員会 特定共同指導対策プロジェクト会議	千葉歯科医療センター業務連絡会
26	木	6年生第3回総合学力試験(~10/27) TDC ビル協議会、水病教職員研修会	部長会、管理診療委員会	
27	金		災害対策委員会	
28	土			
29	日			
30	月			
31	火		緩和ケア委員会	

2023年11月

		大学・短期大学・水道橋病院・さいかち坂校舎	市川総合病院	千葉歯科医療センター
1	水	教職員インフルエンザワクチン接種、水病薬事委員会 [防火・防災安全自主点検日]	臨床検査運営委員会	
2	木		感染制御委員会 プログラム委員会	消防訓練 診療録整備部会
3	金	文化の日		
4	土	短大修学指導に関する保護者説明会		
5	日			
6	月	短大水道橋病院臨床実習小委員会	教職員向けインフルエンザワクチン接種 薬事委員会 市川リレーションシップカンファレンス	医療連携部会
7	火	水病感染予防対策チーム委員会	緩和ケア委員会 第2回医療安全講演会	リスクマネージャー部会 ICT部会
8	水	短大教授会、解剖慰霊祭 水病リスクマネージメント部会 学術情報セミナー	救急委員会 治験審査委員会・倫理審査委員会・利益相反委員会 ICU 運営委員会、CPC	教職員インフルエンザワクチン接種
9	木	短大水道橋病院臨床実習指導者委員会	患者サービス向上委員会 脳卒中センター運営会議 地域連携委員会 手術室運営委員会 地域連携バス検討小委員会	教職員インフルエンザワクチン接種
10	金	教職員インフルエンザワクチン接種 短大千葉歯科医療センター臨床実習指導者委員会	教職員向けインフルエンザワクチン接種 こどもサポートチーム運営会議	
11	土	短大学校推薦型選抜/学士選抜試験		
12	日			
13	月	短大教授会	医療安全管理委員会	千葉校舎衛生委員会 研修管理小部会 千葉歯科医療センター医局長会
14	火	臨床教授連絡会、講座主任教授会 人事委員会	緩和ケア委員会 第2回図書委員会	
15	水	基礎教授連絡会 大学院運営委員会、大学院研究科委員会 第7回図書館事務連絡会 [環境清掃日][危険物・危険薬品廃棄処理日]	公認会計士中間監査(~11/16) 褥瘡対策委員会 診療材料検討委員会 輸血療法委員会	千葉歯科医療センター医療連携協議会
16	木	水病診療録指導委員会 水病病院運営会議・医局長会・医療安全管理委員会 水病感染予防対策委員会・個人情報保護委員会	部長会 労務管理担当マネージャー会議 説明と同意の質向上委員会 衛生委員会	
17	金	第168回倫理審査委員会・第108回利益相反委員会	NST カンファレンス 栄養管理委員会	
18	土			

19	日	学校推薦型選抜、帰国子女・留学生特別選抜、 編入学 A、学士等特別選抜 A		
20	月	短大教授会 第 4 回図書委員会 [機器等安全自主点検日]	DX 講演会	千葉歯科医療センター協議会 個人情報保護部会 感染予防対策部会 薬事部会
21	火			
22	水	TDC ビル協議会、水病業務連絡会 第 7 回国際交流部運営委員会 水病データ管理者会議・診療録管理委員会	診療記録委員会・情報システム委員会 (メール開催) 糖尿病教室 糖尿病教室カンファレンス 特定共同指導対策プロジェクト会議	千葉歯科医療センター業務連絡会
23	木	勤労感謝の日		
24	金		リスクマネージャー会議 業務改善委員会	千葉歯科医療センター研修会(医療安全)
25	土	短大専攻科入学試験(Ⅰ期)		
26	日			
27	月	短大教授会	キャンサーボード	
28	火	衛生委員会	クリニカルパス委員会 緩和ケア委員会 院内迅速対応システム検討委員会 給食運営会議	
29	水		第 2 回感染予防対策講演会	臨床研修歯科医教育セミナー
30	木	短大教授会 水病研修歯科医全体集合 水病教職員研修会	内視鏡室委員会 管理診療委員会 バスキュラーボードカンファレンス	歯科衛生士セミナー

令和4年度財務の概要

資金収支計算書

学校法人会計で資金収支計算書を作成する目的は、第一に当該会計年度の諸活動に対応する全ての収入及び支出の内容を明らかにすること、第二に当該会計年度での支払資金の収入と支出とその顛末を明らかにすることである。当該年度はもとより、前年度以前あるいは次年度以降の諸活動に関する資金も含め、当該会計年度の中で実際に動きのあった全ての支払い資金(現金預金)の収支の動きを明らかにするため調整項目を設けている。また、その他の収入・資産運用支出の科目は、繰り返し発生する年中の資金の出入りを総額で表示しているため大きな額となっている。

令和4年度の(収入の部)では、補助金収入は私立大学等経常費補助金や新型コロナ対策の補助金などがあり、対予算で約3億9,200万円の増となった一方、対前年では新型コロナ対策の補助金が減となり約3億9,100万円の減となった。また、医療収入は対予算では約1億2,200万円減となったものの、対前年では外来における患者数・診療単価の増などにより、約3億3,400万円増となった。雑収入の対予算増は、主に臨時的な退職者の退職金財団交付金の増やその他の雑収入の増によるものである。前受金収入は、大学・短期大学の令和5年度入学生からの学納金ほかである。その他の収入は、各特定資産からの繰入収入、前期末未収入金収入、貸付金回収収入などである。以上、収入の総額から資金収入調整勘定の期末未収入金・前期末前受金などを差し引

いた収入の部小計は、約623億6,600万円となった。前年度繰越支払資金約44億2,900万円を加えた収入の部合計は、約667億9,500万円となった。

(支出の部)では、人件費は対予算で約4億7,500万円の減となった一方、対前年では退職金支出の増や地域急性期看護手当などで約4億1,100万円の増となった。教育研究経費は対予算で約1,300万円の減、対前年で約300万円の減となった。管理経費は対予算で約1億8,800万円の減、対前年で約5億1,800万円の減となった。エネルギー価格の高騰に伴う光熱費の増や高額医薬品使用増による医療経費の増などがあったものの予算内執行となった。また、前年度は千葉校舎の解体に係る費用があったため、管理経費は前年と比べて大きな差が出た。

施設関係支出は対予算で約3億2,700万円の減、設備関係支出は大学の臨床基礎実習室実習機の更新を先送りしたことなどにより、対予算で約10億6,600万円の減となった。資産運用支出は、退職給与引当特定資産への繰入支出・減価償却引当特定資産への繰入支出などを総額表示している。その他の支出は、貸付金支払支出、前期末未払金支払支出などである。

以上、支出総額から資金支出調整勘定の期末未払金等を差し引いた支出の部小計は、約629億8,400万円となり、支払資金約38億1,100万円が次年度へ繰越となった。

令和4年度 資金収支計算書

令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

(単位：千円)

科目	令和4年度予算	令和4年度決算	差異	令和3年度決算	増減
(収入の部)					
1. 学生生徒等納付金収入	4,907,190	4,856,633	△ 50,557	4,890,994	△ 34,361
2. 手数料収入	46,930	45,188	△ 1,742	51,937	△ 6,749
3. 寄付金収入	39,310	58,212	18,902	80,089	△ 21,877
4. 補助金収入	2,131,990	2,524,157	392,167	2,915,348	△ 391,191
(国庫補助金収入)	(950,640)	(1,123,047)	(172,407)	(1,080,123)	(42,924)
(地方公共団体補助金収入)	(1,178,950)	(1,399,710)	(220,760)	(1,833,325)	(△ 433,615)
(学術研究振興資金収入)	(2,000)	(1,400)	△ 600	(1,500)	(△ 100)
(若手・女性研究者奨励金収入)	(400)	(-)	△ 400	(400)	(△ 400)
5. 資産売却収入	-	-	-	-	-
6. 付随事業・収益事業収入	316,250	393,835	77,585	518,890	△ 125,055
7. 医療収入	21,044,060	20,921,869	△ 122,191	20,587,930	333,939
8. 受取利息・配当金収入	5,300	20,069	14,769	5,046	15,023
9. 雑収入	726,930	929,877	202,947	719,777	210,100
10. 借入金等収入	-	-	-	-	-
11. 前受金収入	1,274,940	1,248,444	△ 26,496	1,198,039	50,405
12. その他の収入	24,772,820	37,067,733	12,294,913	25,101,414	11,966,319
13. 資金収入調整勘定	△ 5,027,000	△ 5,699,885	△ 672,885	△ 5,246,730	△ 453,155
小計	50,238,720	62,366,131	12,127,411	50,822,734	11,543,397
14. 前年度繰越支払資金	3,810,910	4,429,039	618,129	3,821,015	608,024
収入の部合計	54,049,630	66,795,171	12,745,541	54,643,748	12,151,423
(支出の部)					
1. 人件費支出	13,370,700	12,896,047	△ 474,653	12,485,122	410,925
2. 教育研究経費支出	9,867,030	9,853,969	△ 13,061	9,857,392	△ 3,423
3. 管理経費支出	2,532,190	2,343,974	△ 188,216	2,862,406	△ 518,432
4. 借入金等利息支出	16,130	16,123	△ 7	18,230	△ 2,107
5. 借入金等返済支出	289,280	289,280	-	289,280	-
6. 施設関係支出	1,553,940	1,226,898	△ 327,042	941,246	285,652
7. 設備関係支出	2,037,680	972,076	△ 1,065,604	869,158	102,918
8. 資産運用支出	19,907,030	34,896,789	14,989,759	23,019,488	11,877,301
9. その他の支出	1,688,250	2,099,562	411,312	1,693,442	406,120
10. [予備費]	(2,680)				
	292,480		△ 292,480		
11. 資金支出調整勘定	△ 1,445,810	△ 1,610,576	△ 164,766	△ 1,821,054	210,478
小計	50,108,900	62,984,141	12,875,241	50,214,709	12,769,432
12. 次年度繰越支払資金	3,940,730	3,811,029	△ 129,701	4,429,039	△ 618,010
支出の部合計	54,049,630	66,795,171	12,745,541	54,643,748	12,151,423

※科目ごとに千円未満で四捨五入しているため、合計などにおいて差異が生じる場合がある。

財務の概要

令和4年度 活動区分資金収支計算書

令和4年4月1日から令和5年3月31日まで (単位：千円)

		科目	金額
教育活動による資金収支	収入	学生生徒等納付金収入	4,856,633
		手数料収入	45,188
		特別寄付金収入	54,402
		一般寄付金収入	2,020
		経常費等補助金収入	2,514,672
		付随事業収入	224,044
		医療収入	20,921,869
		雑収入	926,505
		教育活動資金収入計	29,545,332
		支出	人件費支出
	教育研究経費支出		9,853,969
	<教育研究経費支出>		<3,085,972>
	<医療経費支出>		<6,767,997>
	管理経費支出		2,341,295
	<管理経費支出>		<2,341,295>
	教育活動資金支出計		25,091,311
差引	4,454,021		
調整勘定等	△ 831,720		
教育活動資金収支差額	3,622,302		
施設整備等活動による資金収支	収入	施設設備寄付金収入	1,790
		施設設備補助金収入	9,485
		減価償却引当特定資産取崩収入	26,115,802
		施設整備等活動資金収入計	26,127,077
	支出	施設関係支出	1,226,898
		設備関係支出	972,076
		減価償却引当特定資産繰入支出	27,977,691
		大学移転寄付特定資産繰入支出	1,790
		施設整備等活動資金支出計	30,178,456
		差引	△ 4,051,379
調整勘定等	△ 27,766		
施設整備等活動資金収支差額	△ 4,079,145		
小計(教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)	△ 456,843		
その他の活動による資金収支	収入	退職給与引当特定資産取崩収入	6,884,198
		大学奨学金特定資産取崩収入	9,001
		貸付金回収収入	134,130
		仮払金回収収入	1,447
		小計	7,028,776
		受取利息・配当金収入	20,069
		収益事業収入	169,791
	過年度修正収入	3,372	
	その他の活動資金収入計	7,222,008	
	支出	借入金等返済支出	289,280
		退職給与引当特定資産繰入支出	6,909,334
大学奨学金特定資産繰入支出		7,973	
貸付金支払支出		132,660	
預り金支払支出	25,019		

その他の活動による資金収支	小計	7,364,266
	借入金等利息支出	16,123
	為替換算差額支出	174
	過年度修正支出	2,505
	その他の活動資金支出計	7,383,068
	差引	△ 161,060
	調整勘定等	△ 107
その他の活動資金収支差額	△ 161,167	
支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)	△ 618,010	
前年度繰越支払資金	4,429,039	
翌年度繰越支払資金	3,811,029	

※科目ごとに千円未満で四捨五入しているため、合計などにおいて差異が生じる場合がある。

活動区分ごとの調整勘定等の計算過程は以下のとおり。 (単位：千円)

項目	資金収支計算書計上額	教育活動による資金収支	施設設備等活動による資金収支	その他の活動による資金収支
前受金収入	1,248,444	1,248,444	-	-
前期末未収入金収入	3,923,155	3,911,719	11,436	-
期末未収入金	△ 4,497,355	△ 4,487,169	△ 10,187	-
前期末前受金	△ 1,202,530	△ 1,202,530	-	-
収入計	△ 528,287	△ 529,536	1,249	-
前期末未払金支払支出	1,837,533	1,710,164	126,965	403
期末未払金	△ 1,421,083	△ 1,420,827	40	△ 296
長期前払費用支払支出	706	706	-	-
建設仮勘定振替	△ 97,990	-	△ 97,990	-
短期前払費用支払支出	102,544	102,544	-	-
前期末短期前払費用	△ 91,125	△ 91,125	-	-
前渡金支払支出	1,100	1,100	-	-
前渡金振替	△ 378	△ 378	-	-
支出計	331,307	302,184	29,015	107
収入計-支出計	△ 859,593	△ 831,720	△ 27,766	△ 107

令和4年度決算での教育活動収支差額は約17億7,900万円の黒字で、教育活動外収支を含めた経常収支差額も約19億5,300万円の黒字となり、水道橋校舎南棟の解体に係る費用を翌年度に見送ったことなどにより補正した後の対予算では約12億8,900万円の黒字増となっている。特別収支を含めた基本金組入前当年度収支差額は約19億4,500万円で、補正後の対予算で約15億6,300万円の増、対前年では令和3年度に千葉校舎解体に伴う大きな臨時的支出があったため約18億3,500万円の増となった。

事業活動収入計は約297億7,100万円で、補正後の対予算で約5億4,000万円増となった。私立大学等経常費補助金が約1億4,600万円増、新型コロナ対策の補助金が約1億9,100万円の増となったことが主な要因である。

一方、事業活動支出計は約278億2,700万円となり、補正後の対予算で約10億2,300万円の減となった。薬品費、診療材料費の増により医療経費が増となったが、人件費、教育研究経費、管理経費は予算内の執行となった。

基本金組入額は、新たな固定資産の取得額から除却および廃棄する固定資産の額を差し引いた額を組み入れた。基本金組入額は約13億3,200万円で、主な要因は市川総合病院の歯科外来棟増築工事、水道橋校舎本館5階法人事務局等改

修工事などである。第4号基本金組入額は、恒常的に保持すべき資金を組み入れた。基本金取崩額は約12億3,900万円を計上し、御殿町グラウンドを収益事業へ移管したことが主な要因である。

前年度決算との比較でみると、前年度は千葉校舎解体に伴う臨時的支出が約28億2,500万円あったため、基本金組入前当年度収支差額は黒字幅が大きくなった。また、新型コロナウイルスの影響も徐々に和らいだため、医療収入は対前年で約3億3,400万円の増となった。一方で、経常費等補助金のうち新型コロナ対策の補助金は対前年で約5億2,800万円の減となり、全体では対前年で約3億3,900万円の減となった。このほか退職金財団交付金の増などがあり、教育活動収入は対前年で約1億8,700万円の増となった。教育活動支出は、人件費で約3億9,000万円の増、教育研究経費のうち教育研究経費で約2億1,000万円の減、医療経費で約2億2,400万円の増、管理経費は約5億2,100万円の減で、合計約1億1,700万円の減となった。教育活動収支差額は約17億7,900万円で対前年比約3億400万円の増、経常収支差額は約19億5,300万円で対前年比約1億6,000万円の増となった。

財務の概要

令和4年度 事業活動収支計算書

令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

(単位：千円)

科 目		令和4年度予算	令和4年度決算	差 異	令和3年度決算	増 減	
教育活動収支	事業活動収入の部	1. 学生生徒等納付金	4,907,190	4,856,633	△ 50,557	4,890,994	△ 34,361
		2. 手数料	46,930	45,188	△ 1,742	51,937	△ 6,749
		3. 寄付金	41,810	58,217	16,407	69,101	△ 10,884
		4. 経常費等補助金	2,131,990	2,514,672	382,682	2,853,664	△ 338,992
		（国庫補助金）	(950,640)	(1,114,467)	(163,827)	(1,042,609)	(71,858)
		（地方公共団体補助金）	(1,178,950)	(1,398,805)	(219,855)	(1,809,155)	(△ 410,350)
		（学術研究振興資金）	(2,000)	(1,400)	(△ 600)	(1,500)	(△ 100)
		（若手・女性研究者奨励金）	(400)	(-)	(△ 400)	(400)	(△ 400)
	5. 付随事業収入	167,690	224,044	56,354	188,727	35,317	
	6. 医療収入	21,044,060	20,921,869	△ 122,191	20,587,930	333,939	
	7. 雑収入	726,180	926,607	200,427	717,683	208,924	
	教育活動収入計	29,065,850	29,547,230	481,380	29,360,036	187,194	
	事業活動支出の部	1. 人件費	13,415,980	12,921,183	△ 494,797	12,531,606	389,577
		2. 教育研究経費	12,176,090	12,123,450	△ 52,640	12,109,280	14,170
		〈教育研究経費〉	<5,550,860>	<5,345,091>	<△ 205,769>	<5,555,366>	<△ 210,275>
〈医療経費〉		<6,625,230>	<6,778,359>	<153,129>	<6,553,913>	<224,446>	
3. 管理経費		2,936,010	2,723,213	△ 212,797	3,243,872	△ 520,659	
〈管理経費〉	<2,936,010>	<2,723,213>	<△ 212,797>	<3,243,872>	<△ 520,659>		
4. 徴収不能額等	11,520	395	△ 11,125	94	301		
教育活動支出計	28,539,600	27,768,240	△ 771,360	27,884,851	△ 116,611		
教育活動収支差額		526,250	1,778,989	1,252,739	1,475,185	303,804	
教育活動外収支	収入の部	1. 受取利息・配当金	5,300	20,069	14,769	5,046	15,023
		2. その他の教育活動外収入	148,560	169,791	21,231	330,201	△ 160,410
		教育活動外収入計	153,860	189,860	36,000	335,247	△ 145,387
	支出の部	1. 借入金等利息	16,130	16,123	△ 7	18,230	△ 2,107
		2. その他の教育活動外支出	280	174	△ 106	2	172
		教育活動外支出計	16,410	16,297	△ 113	18,232	△ 1,935
教育活動外収支差額		137,450	173,564	36,114	317,016	△ 143,452	
経常収支差額		663,700	1,952,553	1,288,853	1,792,201	160,352	
特別収支	収入の部	1. 資産売却差額	-	-	-	-	-
		2. その他の特別収入	11,820	34,353	22,533	97,819	△ 63,466
		特別収入計	11,820	34,353	22,533	97,819	△ 63,466
	支出の部	1. 資産処分差額	42,930	39,646	△ 3,284	1,777,272	△ 1,737,626
		2. その他の特別支出	3,110	2,505	△ 605	3,409	△ 904
特別支出計		46,040	42,151	△ 3,889	1,780,681	△ 1,738,530	
特別収支差額		△ 34,220	△ 7,798	26,422	△ 1,682,862	1,675,064	
[予 備 費]		(13,070)					
		247,310		△ 247,310			
基本金組入前当年度収支差額		382,170	1,944,755	1,562,585	109,339	1,835,416	
基本金組入額合計		△ 3,136,080	△ 1,332,333	1,803,747	△ 1,246,848	△ 85,485	
当年度収支差額		△ 2,753,910	612,422	3,366,332	△ 1,137,509	1,749,931	
前年度繰越収支差額		△ 13,437,430	△ 12,848,077	589,353	△ 11,731,323	△ 1,116,754	
基本金取崩額		235,950	1,238,858	1,002,908	20,755	1,218,103	
翌年度繰越収支差額		△ 15,955,390	△ 10,996,797	4,958,593	△ 12,848,077	1,851,280	
(参 考)							
事業活動収入計		29,231,530	29,771,443	539,913	29,793,102	△ 21,659	
事業活動支出計		28,849,360	27,826,688	△ 1,022,672	29,683,763	△ 1,857,075	

※科目ごとに千円未満で四捨五入しているため、合計などにおいて差異が生じる場合がある。

令和4年度 貸借対照表

令和5年3月31日現在
資産の部

(単位：千円)

科目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	((69,767,101))	((68,414,884))	((1,352,217))
有形固定資産	(43,551,605)	(45,079,093)	(△ 1,527,488)
土地	14,727,429	15,716,005	△ 988,576
建物	22,243,246	22,537,114	△ 293,868
構築物	752,562	724,229	28,333
教育研究用機器備品	4,676,114	4,903,565	△ 227,451
管理用機器備品	206,113	161,102	45,011
図書	930,726	924,791	5,935
車両	7,975	12,581	△ 4,606
建設仮勘定	7,441	99,706	△ 92,265
特定資産	(25,079,123)	(23,191,335)	(1,887,788)
退職給与引当特定資産	4,926,192	4,901,056	25,136
減価償却引当特定資産	19,977,691	18,115,802	1,861,889
大学移転寄付特定資金	13,553	11,763	1,790
大学奨学金特定資産	161,686	162,714	△ 1,028
その他の固定資産	(1,136,373)	(144,456)	(991,917)
施設利用権	1,680	1,894	△ 214
ソフトウェア	4,190	6,741	△ 2,551
収益事業元入金	1,040,646	52,070	988,576
長期貸付金	87,198	80,879	6,319
長期前払費用	2,419	2,632	△ 213
敷金保証金等	240	240	-
流動資産	((10,281,972))	((10,349,577))	((△ 67,605))
現金預金	3,811,029	4,429,039	△ 618,010
未収入金	4,497,284	3,923,395	573,889
貯蔵品	171,981	182,055	△ 10,074
短期貸付金	1,697,051	1,722,122	△ 25,071
短期前払費用	103,462	91,125	12,337
仮払金	-	1,397	△ 1,397
前渡金	1,165	443	722
資産の部合計	80,049,073	78,764,461	1,284,612

負債の部

科目	本年度末	前年度末	増減
固定負債	((6,815,070))	((7,094,449))	((△ 279,379))
長期借入金	1,840,640	2,129,920	△ 289,280
長期未払金	42,196	57,431	△ 15,235
長期預り金	6,042	6,042	-
退職給与引当金	4,926,192	4,901,056	25,136
流動負債	((3,203,250))	((3,584,013))	((△ 380,763))
短期借入金	289,280	289,280	-
未払金	1,438,184	1,839,400	△ 401,216
前受金	1,248,486	1,202,572	45,914
預り金	227,300	252,762	△ 25,462
負債の部合計	10,018,320	10,678,463	△ 660,143

純資産の部

科 目	本年度末	前年度末	増 減
基本金	((81,027,551))	((80,934,075))	((93,476))
第 1 号基本金	78,960,300	78,976,431	△ 16,131
第 4 号基本金	2,067,251	1,957,644	109,607
繰越収支差額	((△ 10,996,797))	((△ 12,848,077))	((1,851,280))
翌年度繰越収支差額	△ 10,996,797	△ 12,848,077	1,851,280
純資産の部合計	70,030,753	68,085,998	1,944,755
負債及び純資産の部合計	80,049,073	78,764,461	1,284,612

※科目ごとに千円未満で四捨五入しているため、合計などにおいて差異が生じる場合がある。

2024 年度 東京歯科大学入学試験要項

学校推薦型選抜(一般公募制)

○募集人員 約 50 名(指定校推薦含む)(全募集人員 128 名中)

○趣旨

人物・学力ともに優秀で、歯科医療担当者としての能力・適性について高等学校長が責任をもって推薦するもので、本大学への入学を強く希望する者に対し、本大学の選考方法によって入学を許可するものである。

○出願資格

- 次の各条件を満たし、かつ高等学校長が責任をもって推薦する者。
- 2023 年 3 月高等学校卒業者または 2024 年 3 月高等学校卒業見込の者。
 - 人物・性格ともに優れ、健康である者。
 - 入学を許可された場合、必ず本大学に入学することを確約できる者。

○選抜方法

学力の 3 要素(「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」)や受験者の多様性をみるため、「調査書」「推薦書」等の出願書類並びに、本学が実施する小テスト、小論文、面接により評価し、総合点の高い順に合否を決定する。

(1) 小論文

提示された資料に対する理解力、分析力、論理的思考力、文章表現力、基礎的知識等を評価する。

(2)小テスト〔外国語(英語)、数学、理科(物理・化学・生物から 1 科目選択)〕
(出題範囲は一般選抜(1 期)に準ずる)

(3)面 接

面接委員が、志望動機、勉学意欲等について質問し、アドミッションポリシーとの適合性を総合的に評価する。

○出願期間

2023 年 11 月 2 日(木)から 2023 年 11 月 10 日(金)(期間内必着のこと)

○選考日・選考会場

選考日 2023 年 11 月 19 日(日)
選考会場 東京歯科大学 水道橋校舎本館
東京都千代田区神田三崎町 2-9-18

○合格通知日

2023 年 12 月 1 日(金)夕刻 (通知は郵送のみ)

○入学手続

2023 年 12 月 4 日(月)から 2023 年 12 月 11 日(月)正午まで

帰国子女・留学生特別選抜

○募集人員 若干名(全募集人員 128 名中)

○趣旨

帰国子女または日本に留学しようとする外国籍を有する外国人で、本大学において歯科医学教育を受けることを強く希望する者に対し、本大学の選考方法によって入学を許可するものである。

○出願資格

次の各項のいずれかに該当する資格を有し、入学を許可された場合、日本語での授業を理解できる者。

- 外国において、学校教育における 12 年の課程を修了した者または 2024 年 3 月 31 日までに修了見込の者またはこれらに準ずる者で文部科学大臣の指定した者。
- 国際バカロレア事務局が授与する国際バカロレア資格を有する者で 2024 年 3 月 31 日までに 18 歳に達する者。
- ドイツ連邦共和国の各州において大学入学資格として認められているアビトゥア資格を有する者で 2024 年 3 月 31 日までに 18 歳に達する者。
- フランス共和国において大学入学資格として認められているバカロレア資格を有する者で 2024 年 3 月 31 日までに 18 歳に達する者。
- グレート・ブリテン及び北部アイルランド連合王国において大学入学資格として認められているジェネラル・サーティフィケート・オブ・エデュケーション・アドバンスト・レベル(GCEA レベル)資格を有する者で 2024 年 3 月 31 日までに 18 歳に達する者。

※帰国子女・留学生特別選抜に出願する「外国人留学生」は、独立行政法人日本学生支援機構が実施する『日本留学試験(EJU)』の次の教科・科目を受験することを出願資格とする。

出題言語:「日本語」

受験科目:「日本語」、「理科」(物理、化学、生物から 2 科目選択)、「数学」(コース 2)

○選抜方法

次の試験を日本語で行う。

(1)小論文

提示された資料(日本語)に対する理解力、分析力、論理的思考力、文章表現力、基礎的知識等を評価する。

(2)小テスト〔外国語(英語)、数学、理科(物理・化学・生物から 1 科目選択)〕

(3)面 接

面接委員が、志望動機、勉学意欲等について質問し、アドミッションポリシーとの適合性を総合的に評価する。

※授業を日本語で実施するため、独立行政法人国際交流基金及び公益財団法人日本国際教育支援協会が実施する日本語能力試験(JLPT)の「N1 レベル」程度の能力が必要となる。

○出願期間

学校推薦型選抜と同様

○選考日・選考会場

学校推薦型選抜と同様

○合格通知日

学校推薦型選抜と同様

○入学手続

学校推薦型選抜と同様

学生募集要項

一般選抜(Ⅰ期)

○募集人員 約 50 名(全募集人員 128 名中)

○選抜方法

学力の3要素(「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」)や受験者の多様性をみるため、「調査書」等の出願書類並びに、本学が実施する教科・科目試験、小論文、面接により評価し、総合点の高い順に合格を決定する。

(1)学力試験(論理的な思考力・表現力を評価するための記述式問題を含む)

①外国語 英語：コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ、英語表現Ⅰ。ただし、実際に音声を使ったリスニングテストは行わない。

②数 学：数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学B〔(2)数列〕と〔(3)ベクトル〕を範囲とする

※数学Ⅰ〔(4)データの分析〕も試験範囲に含む。

③理 科(物理、化学、生物の3科目のうち1科目を試験場で選択する。)

物理：物理基礎、物理

化学：化学基礎、化学

生物：生物基礎、生物

(2)小論文

提示された資料に対する理解力、分析力、論理的思考力、文章表現力、基礎的知識等を評価するための記述式総合問題を出題する。

(3)面 接

面接委員が、志望動機、勉強意欲等について質問し、アドミッションポリシーとの適合性を総合的に評価する。

※大学入学共通テスト利用選抜を併願する者は、一般選抜(Ⅰ期)の「小論文」「面接」試験の受験をもって大学入学共通テスト利用選抜の「小論文」「面接」試験にかえる。

○出願期間・受付方法

2023年12月13日(水)から2024年1月12日(金)(期間内必着のこと)

○試験日・試験会場

試 験 日 2024年2月2日(金)

試験会場 1)東京会場 東京歯科大学
水道橋校舎本館・新館
東京都千代田区神田三崎町2-9-18本館
東京都千代田区神田三崎町2-1-14(新館)
2)大阪会場 TKP 新大阪ビジネスセンター
大阪府大阪市淀川区西中島5-13-9
3)福岡会場 TKP 博多駅前シティセンター
福岡県福岡市博多区博多駅前3-2-1

○合格通知日

2024年2月6日(火)夕刻(合格通知発送、速報としてホームページでも通知する)

○入学手続

2024年2月7日(水)から2024年2月14日(水)正午まで

一般選抜(Ⅱ期)

○募集人員 約 15 名(全募集人員 128 名中)

○選抜方法

学力の3要素(「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」)や受験者の多様性をみるため、「調査書」等の出願書類並びに、本学が実施する教科・科目試験、小論文、面接により評価し、総合点の高い順に合格を決定する。

(1)学力試験(論理的な思考力・表現力を評価するための記述式問題を含む)

(出題範囲は一般選抜(Ⅰ期)と同様とする。)

①外国語(英語)

②数学・物理・化学・生物のうち1科目を試験場で選択

(2)小論文

一般選抜(Ⅰ期)と同様

(3)面 接

一般選抜(Ⅰ期)と同様

※大学入学共通テスト利用選抜を併願する者は、一般選抜(Ⅱ期)の「小論文」「面接」試験の受験をもって大学入学共通テスト利用選抜の「小論文」「面接」試験にかえる。

○出願期間

2024年2月15日(木)から2024年3月1日(金)(期間内必着のこと)

○試験日・試験会場

試 験 日 2024年3月9日(土)

試験会場 東京歯科大学 水道橋校舎本館
東京都千代田区神田三崎町2-9-18

○合格通知日

2024年3月12日(火)夕刻(合格通知発送、速報としてホームページでも通知する)

○入学手続

2024年3月13日(水)から2024年3月18日(月)正午まで

大学入学共通テスト利用選抜(Ⅰ期)

○募集人員 8名(全募集人員128名中)

○出願資格

令和6年度大学入学共通テストを受験した者で、本学が利用する教科・科目を解答した者。

○選抜方法

学力の3要素(「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」)や受験者の多様性をみるため、「調査書」等の出願書類並びに、大学入学共通テスト、本学が実施する小論文、面接により評価し、総合点の高い順に合否を決定する。

(1)大学入学共通テストを受験する際、次の科目を受験しておくこと。

教科	科目	配点
外国語	「英語(リスニングを除く)」	100点
数学	「数学Ⅰ・数学A」、「数学Ⅱ・数学B」の2科目	100点
理科	「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」から2科目 または「物理」、「化学」、「生物」から1科目 ※理科について、2科目を受験した場合は、高得点の科目を合否判定に使用する。「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」については選択した2科目の点数を1科目の得点として扱う	100点

(2)小論文

一般選抜(Ⅰ期)と同様

(3)面接

一般選抜(Ⅰ期)と同様

※一般選抜(Ⅰ期)を併願する者は、一般選抜(Ⅰ期)の「小論文」「面接」試験の受験をもって大学入学共通テスト選抜の「小論文」「面接」試験にかえる。

○出願期間

2023年12月13日(水)から2024年1月12日(金)(期間内必着のこと)

○試験日・試験会場

試験日 2024年2月2日(金)

試験会場 一般選抜(Ⅰ期)と同様

○合格通知日

2024年2月6日(火)夕刻(合格通知発送、速報としてホームページでも通知する)

○入学手続

2024年2月7日(水)から2024年2月14日(水)正午まで

大学入学共通テスト利用選抜(Ⅱ期)

○募集人員 5名(全募集人員128名中)

○出願資格

令和6年度大学入学共通テストを受験した者で、本学が利用する教科・科目を解答した者。

○選抜方法

学力の3要素(「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」)や受験者の多様性をみるため、「調査書」等の出願書類並びに、大学入学共通テスト、本学が実施する小論文、面接により評価し、総合点の高い順に合否を決定する。

(1)大学入学共通テストを受験する際、次の科目を受験しておくこと。

教科	科目	配点
外国語	「英語(リスニングを除く)」	100点
数学	「数学Ⅰ・数学A」、「数学Ⅱ・数学B」の2科目	100点
理科	「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」から2科目 または「物理」、「化学」、「生物」から1科目 ※理科について、2科目を受験した場合は、高得点の科目を合否判定に使用する。「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」については選択した2科目の点数を1科目の得点として扱う	100点

(2)小論文

一般選抜(Ⅰ期)と同様

(3)面接

一般選抜(Ⅰ期)と同様

※一般選抜(Ⅱ期)を併願する者は、一般選抜(Ⅱ期)の「小論文」「面接」試験の受験をもって大学入学共通テスト選抜の「小論文」「面接」試験にかえる。

○出願期間・受付方法

2024年2月15日(木)から2024年3月1日(金)(期間内必着のこと)

○試験日・試験会場

試験日 2024年3月9日(土)

試験会場 東京歯科大学 水道橋校舎本館
東京都千代田区神田三崎町2-9-18

○合格通知日

2024年3月12日(火)夕刻(合格通知発送、速報としてホームページでも通知する)

○入学手続

2024年3月13日(水)から2024年3月18日(月)正午まで

学生募集要項

編入学試験 A

○募集人員 若干名

○編入年次

第2学年4月に編入

○出願資格

次のいずれかを満たす者とする。

- ① 4年制大学卒業者または2024年3月卒業見込の者
- ② 医療技術系短期大学を卒業した者または2024年3月卒業見込の者
※医療技術系短期大学とは、看護・歯科衛生・歯科技工・臨床検査・診療放射線・理学療法・作業療法・臨床工学・言語聴覚等の分野を履修する短期大学
- ③ 4年制大学に2年以上在学し、所定の単位を取得した者、または2024年3月までに4年制大学に2年以上在学し、所定の単位を取得見込の者
※所定の単位は、総単位数65単位以上とし、うち数学・物理学・化学・生物学に関する科目について合計16単位以上を必要単位数とする。

○選抜方法

- (1) 小論文
提示された資料に対する理解力、分析力、論理的思考力、文章表現力、基礎的知識等を評価する。
- (2) 小テスト(英語・数学・理科(物理・化学・生物)の基礎知識問題)
(中学・高校での履修内容のごく基礎的な内容を出題する)

(3) 面接

面接委員が、アドミッションポリシーとの適合性を総合的に評価する。
※学士等特別選抜Aを併願する者は、編入学試験Aの「小論文」「小テスト」「面接」試験の受験をもって学士等特別選抜Aの「小論文」「小テスト」「面接」試験にかえる。

○出願期間・受付方法

2023年11月2日(木)から2023年11月10日(金)(期間内必着のこと)

○選考日・選考会場

選考日 2023年11月19日(日)
選考会場 東京歯科大学 水道橋校舎本館
東京都千代田区神田三崎町2-9-18

○合格通知日

2023年12月1日(金)夕刻(通知は郵送のみ)

○入学手続

2023年12月4日(月)から2023年12月11日(月)正午まで

編入学試験 B

○募集人員 若干名

○編入年次

第2学年4月に編入

○出願資格

※編入学試験Aと同様

○選抜方法

- (1) 小論文
提示された資料に対する理解力、分析力、論理的思考力、文章表現力、基礎的知識等を評価する。
- (2) 小テスト(英語・数学・理科(物理・化学・生物)の基礎知識問題)
(中学・高校での履修内容のごく基礎的な内容を出題する)
- (3) 面接
面接委員が、アドミッションポリシーとの適合性を総合的に評価する。
※学士等特別選抜Bを併願する者は、編入学試験Bの「小論文」「小テスト」「面接」試験の受験をもって学士等特別選抜Bの「小論文」「小テスト」「面接」試験にかえる。

○出願期間・受付方法

2024年2月15日(木)から2024年3月1日(金)(期間内必着のこと)

○試験日・試験会場

試験日 2024年3月9日(土)
試験会場 東京歯科大学 水道橋校舎本館
東京都千代田区神田三崎町2-9-18

○合格通知日

2024年3月12日(火)夕刻(通知は郵送のみ)

○入学手続

2024年3月13日(水)から2024年3月18日(月)正午まで

学士等特別選抜 A

○募集人員 若干名(全募集人員 128 名中)

○入学年次
第 1 学年 4 月に入学

○出願資格
※編入学試験 A と同様

○選抜方法
(1)小論文
提示された資料に対する理解力、分析力、論理的思考力、文章表現力、基礎的知識等を評価する。
(2)小テスト〔英語・数学・理科(物理・化学・生物)の基礎知識問題〕
(中学・高校での履修内容のごく基礎的な内容を出題する)
(3)面接
面接委員が、アドミッションポリシーとの適合性を総合的に評価する。
※編入学試験 A を併願する者は、編入学試験 A の「小論文」「小テスト」「面接」試験の受験をもって学士等特別選抜 A の「小論文」「小テスト」「面接」試験にかえる。

○出願期間・受付方法
2023 年 11 月 2 日(木)から 2023 年 11 月 10 日(金)(期間内必着のこと)

○選考日・選考会場
選考日 2023 年 11 月 19 日(日)
選考会場 東京歯科大学 水道橋校舎本館
東京都千代田区神田三崎町 2-9-18

○合格通知日
2023 年 12 月 1 日(金)夕刻(通知は郵送のみ)

○入学手続
2023 年 12 月 4 日(月)から 2023 年 12 月 11 日(月)正午まで

学士等特別選抜 B

○募集人員 若干名(全募集人員 128 名中)

○入学年次
第 1 学年 4 月に入学

○出願資格
※編入学試験 A と同様

○選抜方法
(1)小論文
提示された資料に対する理解力、分析力、論理的思考力、文章表現力、基礎的知識等を評価する。
(2)小テスト〔英語・数学・理科(物理・化学・生物)の基礎知識問題〕
(中学・高校での履修内容のごく基礎的な内容を出題する)
(3)面接
面接委員数名が、アドミッションポリシーとの適合性を総合評価する。
※編入学試験 B を併願する者は、編入学試験 B の「小論文」「小テスト」「面接」試験の受験をもって学士等特別選抜 B の「小論文」「小テスト」「面接」試験にかえる。

○出願期間・受付方法
2024 年 2 月 15 日(木)から 2024 年 3 月 1 日(金)(期間内必着のこと)

○試験日・試験会場
試験日 2024 年 3 月 9 日(土)
試験会場 東京歯科大学 水道橋校舎本館
東京都千代田区神田三崎町 2-9-18

○合格通知日
2024 年 3 月 12 日(火)夕刻(通知は郵送のみ)

○入学手続
2024 年 3 月 13 日(水)から 2024 年 3 月 18 日(月)正午まで

<学納金> . . . 全入試制度共通		
入学金	600,000 円	(入学時のみ)
授業料	3,500,000 円	
歯学教育充実費	4,300,000 円	(入学時のみ)
施設維持費	1,000,000 円	
合計	9,400,000 円	

2024 年度東京歯科大学大学院歯学研究科(博士課程)

学生募集要項

○募集人員 歯学専攻 34 名

(社会人特別選抜(若干名)
口腔がん専門医養成コース(治療専門医養成コース、
支持療法専門医養成コース)を含む)

○入学願書受付期間

第Ⅰ期 2023 年 10 月 2 日(月)～2023 年 11 月 17 日(金)まで
第Ⅱ期 2024 年 1 月 5 日(金)～2024 年 2 月 16 日(金)まで

○試験科目

- ・一般選抜
- ・口腔がん研究を臨床に活かせる専門歯科医師養成コース
- ・がん治療支持療法のための歯科医師養成コース
 - 1) 外国語(英語：辞書(電子辞書)の持込み可)
 - 2) 専攻主科目試験および面接
- ・社会人特別選抜
 - 1) 外国語(英語：辞書(電子辞書の持込み可)
 - 2) 口頭試問(面接)(提出書類の審査によって社会人としての業務歴または研究内容、基礎学力の評価を総合的に判断し選考する)
 - 3) 専攻主科目試験および面接
※社会人特別選抜については、原則として歯科基礎系講座のみを志望できる。

○選考日・選考会場

第Ⅰ期 2023 年 12 月 2 日(土) 東京歯科大学 水道橋校舎
第Ⅱ期 2024 年 3 月 2 日(土) 東京歯科大学 水道橋校舎

○合格者発表

第Ⅰ期 2023 年 12 月 8 日(金)正午 ホームページにて発表
第Ⅱ期 2024 年 3 月 8 日(金)正午 ホームページにて発表

○学費

入 学 金 300,000 円
授 業 料 800,000 円
2,000 円
施設維持費 100,000 円(入学当初のみ)ただし、本学を卒業した者からは徴収しない。

※受験資格(一般)

- 1) 歯科大学または大学歯学部を卒業した者。
2006 年 4 月以降に歯科医師免許を取得した者は、原則として 1 年以上の歯科医師臨床研修を修了していること。
- 2) 1) と同等以上の学力があると認められた者。

※受験資格(社会人)

- 開業医、大学、研究所の勤務医・教員・研究者等として原則 2 年以上の経験を有し、入学後もその身分を有する者で、以下の資格を満たしている者。
- 1) 歯科大学または大学歯学部を卒業した者。
 - 2) 1) と同等以上の学力があると認められた者。

2024年度 東京歯科大学短期大学歯科衛生学科 学生募集要項

修業年限 3年

1. 募集人員

入試区分	募集人員
総合型選抜(Ⅰ期、Ⅱ期)	約20名
学校推薦型選抜(一般公募制/指定校制)	約20名
学士選抜	若干名
一般選抜	約10名

2. 試験日程

総合型選抜(Ⅰ期)	令和5(2023)年10月14日(土)
学校推薦型選抜(一般公募制/指定校制)	令和5(2023)年11月11日(土)
学士選抜	令和5(2023)年11月11日(土)
一般選抜	令和6(2024)年2月3日(土)
総合型選抜(Ⅱ期)	令和6(2024)年3月2日(土)

総合型選抜

出願資格

受験する年度の本学オープンキャンパスに参加し、次の項目の1つに該当する女子。

1. 高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者および令和6(2024)年3月卒業見込みの者。
2. 通常の課程による12年の学校教育を修了した者および令和6(2024)年3月卒業見込みの者。
3. 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者および令和6(2024)年3月31日までに修了見込みの者、またはこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者。
4. 文部科学大臣が高等学校の課程に相当する課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者および令和6(2024)年3月31日までに修了見込みの者。
5. 文部科学大臣の指定した者。
6. 高等学校卒業程度認定試験規則により、文部科学大臣の行う高等学校卒業程度認定試験に合格した者および令和6(2024)年3月31日までに合格見込みの者で、令和6(2024)年3月31日までに18歳に達する者(大学入学資格検定規程による大学入学資格検定に合格した者を含む)。
7. その他大学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、令和6(2024)年3月31日までに18歳に達する者。

※本項に定める「個別の入学審査」により受験資格を得ようとする者は、本学所定の様式により書類審査を行うので事務室へ問い合わせること。なお、個別の入学資格審査の申請手続は入学試験出願受付開始の2週間前までとする。

- ※総合型選抜(Ⅰ期)は、入学を許可された場合、必ず本学に入学することを確約できる者(専願者)が受験することが出来る。
- ※総合型選抜(Ⅰ期)受験者は、本学の学校推薦型選抜との併願を認める。
- ※総合型選抜(Ⅱ期)は、併願者(本学を第一志望としない者)の受験を認める。

出願期間

Ⅰ期：令和5(2023)年9月1日(金)～令和5(2023)年10月3日(火)(期間内必着のこと)

Ⅱ期：令和6(2024)年2月15日(木)～令和6(2024)年2月26日(月)(期間内必着のこと)

※出願書類は、必ず書留速達郵便で発送すること。持参しても受け付けない。

選考内容

学力の3要素[※]や受験者の多様性をみるため、出願書類ならびに本学が実施する試験、面接により評価する。

(※「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」)

1. 書類審査(エントリーシート、調査書、自己推薦書)
2. 聴講記述試験
試験当日、本学教員による講義を聴講し、その内容に関する設問に対し、理解力、分析力、論理的思考力、文章表現力、基礎的知識等を評価・採点する。
3. 面接
面接委員が、志望動機、勉学意欲等について質問し、アドミッション・ポリシーとの適合性を総合的に評価する。

選考日時・会場

期 日：Ⅰ期：令和5(2023)年10月14日(土)

Ⅱ期：令和6(2024)年3月2日(土)

受付時間：8：45

集合時間：9：15

会 場：東京歯科大学短期大学(水道橋校舎本館)

時間割：

時間	選考内容
9：30～11：00	聴講記述試験
11：20～	面接

合格通知

発 送 日：Ⅰ期：令和5(2023)年11月9日(木)

Ⅱ期：令和6(2024)年3月6日(水)

通知方法：受験生に、可否の結果を送付する。

※電話、郵便あるいは来校等による可否の問い合わせには一切応じない。

入学手続

- ・納付金の納入方法等の詳細は「合格通知」とともに送付する。
- ・入学の手続に必要な書類の提出が完了し、入学時の納付金が完納されたときに、「入学許可証」および入学に関する詳細を送付する。
- ・納付金納入期限：
Ⅰ期：令和5(2023)年11月10日(金)～令和5(2023)年11月21日(火)正午まで
Ⅱ期：令和6(2024)年3月7日(木)～令和6(2024)年3月15日(金)正午まで
但し、Ⅱ期合格者で他大学を受験する者は、令和6(2024)年3月25日(月)正午まで(施設維持費、授業料)の延納を認める。延納を希望する場合は、3月15日(金)正午までに入学金を納入し、3月18日(月)までに延納願(指定様式)を提出(郵送必着)すること。
延納願を申請できるのは、他大学受験者のみ。

※入学手続ならびに学費・諸納付金納入を期限までに行わない者は、合格を無効とする。

※納入された学費・諸納付金は、理由の如何を問わず一切返還しない。

学生募集要項

学校推薦型選抜(一般公募制/指定校制)

出願資格

次の条件をすべて満たす女子。

- 令和6年(2024)年3月高等学校(中等教育学校を含む)卒業見込みの者、あるいは令和5(2023)年3月高等学校を卒業した者。
- 人物・性格・学力ともに優れ、健康である者。
- 入学を許可された場合、必ず本学に入学することを確約できる者。
- 指定校制については、1.～3.に加えて、本学の指定する高等学校(中等教育学校を含む)の高等学校長が、本学の趣旨に則り推薦する者。

※総合型選抜(Ⅰ期)受験者は、本学の学校推薦型選抜との併願を認める。

出願期間

令和5(2023)年11月1日(水)～令和5(2023)年11月8日(水)(期間内必着のこと)

※出願書類は、必ず書留速達郵便で発送すること。持参しても受け付けない。

選考内容

学力の3要素[※]や受験者の多様性をみるため、出願書類ならびに本学が実施する小論文試験、面接により評価する。

(※「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」)

- 書類審査(推薦書、調査書、自己推薦書)
- 小論文
提示された資料に対する理解力、分析力、論理的思考力、文章表現力、基礎的知識等を評価・採点する。
- 面接
面接委員が、志望動機、勉学意欲等について質問し、アドミッション・ポリシーとの適合性を総合的に評価する。

学士選抜

出願資格

本学の一般選抜の受験資格を有し、大学、短期大学を卒業あるいは令和6(2024)年3月卒業見込みの女子。入学を許可された場合、必ず本学に入学することを確約できる者。

出願期間

令和5(2023)年11月1日(水)～令和5(2023)年11月8日(水)(期間内必着のこと)

※出願書類は、必ず書留速達郵便で発送すること。持参しても受け付けない。

選考内容

- 書類審査(自己推薦書、大学、短期大学の成績証明書)
- 小論文
提示された資料に対する理解力、分析力、論理的思考力、文章表現力、基礎的知識等を評価・採点する。
- 面接
面接委員が、志望動機、勉学意欲等について質問し、アドミッション・ポリシーとの適合性を総合的に評価する。

選考日時・会場

期 日：令和5(2023)年11月11日(土)

受付時間：8：45

集合時間：9：15

会 場：東京歯科大学短期大学(水道橋校舎本館)

時間割：

時間	選考内容
9：30～10：40	小論文
11：00～	面接

選考日時・会場

期 日：令和5(2023)年11月11日(土)

受付時間：8：45

集合時間：9：15

会 場：東京歯科大学短期大学(水道橋校舎本館)

時間割：

時間	選考内容
9：30～10：40	小論文
11：00～	面接

合格通知

発 送 日：令和5(2023)年12月1日(金)

通知方法

- 推薦高等学校長に、合否の結果を送付する。
 - 受験生に、合否の結果を送付する。
- ※電話、郵便あるいは来校等による合否の問い合わせには一切応じない。

入学手続

- 納付金の納入方法等の詳細は「合格通知」とともに送付する。
- 入学の手続に必要な書類の提出が完了し、入学時の納付金が完納されたときに、「入学許可証」および入学に関する詳細を送付する。
- 納付金納入期限：令和5(2023)年12月4日(月)～令和5(2023)年12月11日(月)正午まで

※入学手続ならびに学費・諸納付金納入を期限までに行わない者は、推薦入試制度の意図に反するものとして出身高等学校長への通達をもって、合格を無効とする。

※納入された学費・諸納付金は、理由の如何を問わず一切返還しない。

合格通知

発 送 日：令和5(2023)年12月1日(金)

通知方法

- 受験生に、合否の結果を送付する。
- ※電話、郵便あるいは来校等による合否の問い合わせには一切応じない。

入学手続

- 納付金の納入方法等の詳細は「合格通知」とともに送付する。
- 入学の手続に必要な書類の提出が完了し、入学時の納付金が完納されたときに、「入学許可証」および入学に関する詳細を送付する。
- 納付金納入期限：令和5(2023)年12月4日(月)～令和5(2023)年12月11日(月)正午まで
- 納付金を期限までに納入しない者は合格を無効とする。

※納入された学費・諸納付金は、理由の如何を問わず一切返還しない。

一般選抜

受験資格

次の項目の1つに該当する女子。

1. 高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者および令和6(2024)年3月卒業見込みの者。
2. 通常の課程による12年の学校教育を修了した者および令和6(2024)年3月卒業見込みの者。
3. 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者および令和6(2024)年3月31日までに修了見込みの者、またはこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者。
4. 文部科学大臣が高等学校の課程に相当する課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者および令和6(2024)年3月31日までに修了見込みの者。
5. 文部科学大臣の指定した者。
6. 高等学校卒業程度認定試験規則により、文部科学大臣の行う高等学校卒業程度認定試験に合格した者および令和6(2024)年3月31日までに合格見込みの者で、令和6(2024)年3月31日までに18歳に達する者(大学入学資格検定規程による大学入学資格検定に合格した者を含む。)
7. その他大学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、令和6(2024)年3月31日までに18歳に達する者。
※本項に定める「個別の入学審査」により受験資格を得ようとする者は、本学所定の様式により書類審査を行うので事務室へ問い合わせること。なお、個別の入学資格審査の申請手続は入学試験出願受付開始の2週間前までとする。

出願期間・受付方法

令和6(2024)年1月18日(木)～令和6(2024)年1月31日(水)(期間内必着のこと)

※出願書類は、必ず書留速達郵便で発送すること。持参しても受け付けない。

試験内容

- 学力の3要素^{*}や受験者の多様性をみるため、出願書類ならびに本学が実施する学科総合試験、面接により評価する。
(※「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」)
1. 書類審査(調査書)
 2. 学科総合試験…以下から試験当日、2科目を選択する
(論理的な思考力・表現力を評価するための記述式問題を含む)
国語 [国語総合(現代文のみ)]
外国語 [コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ、英語表現Ⅰ、ただし、実際に音声を使ったリスニングテストは行わない]
数学 [数学Ⅰ・数学A]
 3. 面接前記述試験
面接試験実施前に指定されたテーマについて自らの考えを記述してまとめる。
 4. 面接
面接委員が、面接前記述試験の内容も参考にしながら、志望動機、勉学意欲等について質問し、アドミッション・ポリシーとの適合性や思考力・判断力・表現力を総合的に評価する。

選考日時・会場

期 日：令和6(2024)年2月3日(土)

受付時間：8:45

集合時間：9:15

会 場：東京歯科大学短期大学(水道橋校舎本館)

時 間 割：

時間	選考内容
9:30～11:00	学科総合試験
11:20～11:40	面接前記述試験
11:55～	面接

合格通知

発 送 日：令和6(2024)年2月6日(火)

通知方法

- ・受験生に、合否の結果を送付する。
 - ・合格者に入学辞退が生じた場合、補欠者に電話連絡の上、補欠合格を文書にて通知する。
- ※電話、郵便あるいは来校等による合否の問い合わせには一切応じない。

入学手続

- ・納付金の納入方法等の詳細は「合格通知」とともに送付する。
- ・入学の手続に必要な書類の提出が完了し、入学時の納付金が完納されたときに、「入学許可証」および入学に関する詳細を送付する。
- ・納付金納入期限：令和6(2024)年2月8日(木)～令和6(2024)年2月16日(金)正午まで

但し、他大学を受験する者は、令和6(2024)年3月25日(月)正午まで(施設維持費、授業料)の延納を認める。延納を希望する場合は、2月16日(金)正午までに入学金を納入し、2月19日(月)までに延納願(指定様式)を提出(郵送必着)すること。

延納願を申請できるのは、他大学受験者のみ。

- ・納付金を期限までに納入しない者は合格を無効とする。

※納入された学費・諸納付金は、理由の如何を問わず一切返還しない

リレー連載

あのころ私も若かった！

この企画のお話を、「ええっ！この先生が？」といった《読者が意外に思うことと一緒に》というリクエストとともにいただきました。そこで学生時代を振り返りました。

月に数回カラオケに行く……とは言っても、今のようなカラオケボックスはまだなかったので、カラオケマシーンが置いてある飲み屋さんで、しかも曲をオーダーするたびに数百円ずつお金を払うのではなく「歌いたい放題」のお店に通ったこと。小・中学生相手の家庭教師のアルバイトを掛け持ちして、小遣い稼ぎをしたこと。ディズニーランドの倉庫でクリーニング屋さんから配送される畳まれたキャストの衣装を、ひたすらハンガーにかけるアルバイトをしたこと……などが思い出されましたが、どれも「ええっ！」と読者が驚くようなことではなく、「まあ、あるよね」というようなことばかり。とても楽しい思い出ではありますが、「特記事項」とは言えません。



今号の「私」は
山本 仁 副学長

東京都江東区出身

昭和63年卒（第93期）

水泳部／卒業試験対策委員長

そんな平平凡々な学生生活でしたが、アクセントをつけてくれていたものをあげるとすると、水泳部での活動になります。3月末の合宿から、8月上旬のデンタルまでの5か月間、練習に励みました。日頃の練習場は、千葉校舎近くの高洲プールやYMCAのプール。夏には各地で合宿をしましたが、館山での合宿は思い出深いものでした。日中は市民の方々が使用するので、練習は早朝と夜。起きて気が付くと泳いでいて、という状況でした。プールが市民に開放されている屋間は海に行くなどして過ごしました。

当時の水泳部はまさに黄金時代で、練習は厳しかったです。在学中のデンタルはすべて優勝という、贅沢な時代を過ごさせていただきました。先輩、同期生、後輩に感謝です。

仁ちゃん
セピア色の
思い出



同期とデンタル後の1枚
右から五百住君、著者、
田回君、寺田君



鴨川の海に
ピース！



館山合宿に参加したメンバー
前列左から4人目が著者

写真は、水泳部OBの田中章啓先生（山形県）が部室で見つけたアルバムから接写したものです。



広報・公開講座部長：橋本 貞充

編集委員：阿部 潤也

井上 直記

上田 貴之

岡田 舞

河合 宏明

世木田 晋

染屋 智子

高橋 恭子

瀧口 葵

田島 大地

多田 美穂子

橋本 尚呂子

松浦 由美子

宮川 裕暉

渡辺 賢

編集後記

第55回東歯祭。COVID-19の5類移行後に開催された、4年振りとなる制限のないお祭りの日。学園祭がなくなった時代を過ごした若い世代がつくる新しい東歯祭。テーマは「歯車」。歯車は1つだけでは動かない。大きな歯車が、力を分け合い互いに調和しながら繋がる、たくさんの小さな歯車たちに支えられながら、ゴールに向かって全力で回り続ける。隅に隠れたたった1個の歯車がなくなったとしても、パフォーマンスは得られない。

舞台上、スポットライトの光の中に浮かびあがる心が震える一瞬。1人ひとりの個性の歯車が噛み合っ、今の自分たちにしかできないものが造りあげられていく。いつの間にか、客席とステージはひとつになる。



第55回東歯祭。観客の熱狂の中、ダンス部のチームが躍動する。